



同窓会会報

Alumni Association University of the Ryukyus

2024年3月21日



民俗研究クラブの琉大祭仮装行列 (1969年12月、経済学科20期 大城弘明氏撮影)

目次

■ 会長あいさつ	2	徳を積み琉大を経て県立芸大をデザインし沖縄のウマイ (想い)をつなぐ	
■ 学長ごあいさつ	3	上原正功氏の生き方から学ぶ沖縄のチムグクル (心)	28~29
■ 2023年度定期総会	4	琉大のお宝 ノーベル賞受賞者が残したモノ	30
2022年度決算・2023年度決算概要	4	■ 社会貢献活動	
2023年度事業画	5	ハワイマウイ島被災復興への支援	31
■ 琉球大学同窓会 学生への支援事業		琉球放送「応援!18の旅立ち」への支援	31
2023年度総合奨励金事業	6	■ 学部・学科同窓生動向	
「千原 (せんばる) 奨励金」を受けて	6~7	化学同窓会・懇親会 38期代表 山里崇氏	32
「芭蕉 (ばしょう) 奨励金」を受けて	7~8	同期会 31期 原つ氏	32
教員候補者選考試験対策講座	9	書道クラブOB書展	33
教員候補者選考試験合格体験記	10	■ 母校情報 サークル活動報告	
■ 琉球大学役員との意見交換会	11	琉球学ソフトボール部	34
■ 同窓会活動		琉球マニカ部	34
岸本正之氏顕彰記念日セレモニー	12~13	■ ミツパチから学ぶ社会性 准教授 関根憲太郎	35
■ 留学生ホームビジットの開催	14~15	■ 沖縄寮歌・大学の歌祭り	36
次回開催案内~あなたもホストファミリーになりませんか~	14	■ 文芸投稿コーナー	37~39
■ 支部活動報告		■ 同窓会創立70周年記念事業紹介	40~41
支長・事務局長連発	16	琉球大学同窓会基金推進委員会	40
各部連発	16~22	■ 2024年度「定期総会」のご案内	41
■ 活躍する同窓生インタビュー		■ 2023年度同窓会三役・名誉顧問・事務局長紹介	42
沖縄県 副知事 池田州氏	24	■ 会報第46号編集委員	42
沖縄女子短期大学 学長 金城育子氏	25	■ 2023年度同窓会役員	43
■ 同窓会70周年記念企画		選ばれる理由	43
首里城の地下にもう一つの文化遺産	26~27	■ ご寄付を頂いた個人・企業等	44~45
~第32軍司令部壕跡の世界遺産登録を目指して~		■ チャリティーゴルフ大会参加申込書	51~52



9
体 1966 14
幸喜徳子

春陽の候、皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は琉球大学同窓会に多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。

当会は1954年12月に第1期、第2期卒業生146人により設立し、以降、学生および大学支援、社会貢献活動、同窓生親睦を目的に活動を続け、おかげを持ちまして2024年12月に創立70周年を迎えます。会員数は8万8,000人余となり、同窓生は沖縄県内や国内、世界で活躍して実に頼もしい限りです。長年にわたり当会活動を支えていただきました同窓生、琉球大学、個人、企業等の皆さまに心より感謝申し上げます。

創立70周年記念事業は、「絆をつむぎ未来につなぐ」をテーマに、学生および大学支援、記念行事、記念誌発行、募金活動等を企画しております。

行事日程は、4月9日(火)チャリティーゴルフ大会、7月13日(土)定期総会に続き講演会、懇親会、来年2月には記念式典や芸術祭を開催予定で、同窓生を始め数多くの県民にご参加いただき創立70周年に華を添えてくださいますようお願い申し上げます。

さらに、昨年3月から募金活動にも取り組んでおります。募金は学生支援を目的とした給付型奨学金の資金造成や記念事業経費を補うために大切に活用いたします。出費多端の折、誠に恐縮ではございますが、募金へのご支援をお願い申し上げます。

給付型奨学金について少し述べます。家庭事情で経済的に困窮する学生を支援するため2019年度から返済を要しない給付型奨学金事業（年間60万円3名、年間30万円4名）に取り組んでいます。この支援により学習環境が少しでも良くなり、将来の目標実現に加え、社会に貢献する社会人になってほしいと願うばかりです。

さて、2023年を振り返ります。先ず訃報をお伝えします。3月21日に当会名誉顧問岸本正之氏が米国ロサンゼルスのご自宅でご逝去（享年88歳）されました。当会では、同氏をしのびお別れ会を兼ねたセレモニーを大学と合同で5月18日に開催し、大雨にもかかわらず多数の関係者にご参列いただきました。また、コロナ収束に伴い7月に4年ぶりに留学生ホームビジットを開催したほか、各支部では総会と懇親会を開催しました。支部の皆さまと久しぶりにお会いすることができ大変うれしく思いました。

2024年は、年明け間もない1月1日に石川県、富山県など北陸地方で大地震と津波被害が発生し、多くの犠牲を払いました。お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

当会は、これからも未来に向けて、各支部共々同窓生の絆を紡ぎながら、発展する同窓会を目指し、微力ながら大学を支援しつつ活発な活動を展開してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。結びに、琉球大学のさらなるご発展と皆さまのますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、あいさついたします。

2024年3月吉日



17
西田 陸

2023(令和5)年度は、新型コロナウイルス感染症の流行がようやく収まりを見せた年となりました。同窓会各支部の総会が4年ぶりに対面で開催され、おかげで皆さまに久しぶりにお目にかかって、日頃のご支援に対するお礼と本学の現況報告を直接お伝えすることができました。たいへん嬉しく思います。

同窓会の皆さまには、令和5年度も教員候補者選考試験対策講座の無償開講や給付型の琉球大学同窓会奨学金の支給など、本学学生の学修環境改善のための温かなご支援を継続的にいただいております。改めて深く感謝申し上げます。

さて、皆さまの母校・琉球大学の今年度の取り組みのいくつかをお伝えいたします。多様な人々がそれぞれの能力や特性を最大限発揮できるダイバーシティの実現が求められています。本学では、女子学生の割合が低い工学部において、募集人員に「女子枠」を設けて入学者の選考を始めました。学生構成の多様化を進め、視野の広い柔軟な創造力を持つ人材を育成することを目指します。

昨年9月には、本学を中心に沖縄・ハワイ・台湾の太平洋島嶼地域の大学が協働する「インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム」が、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。また、本学と覚書を締結した南米4カ国（アルゼンチン、ブラジル、ペルー、ポリビア）の沖縄県人会から推薦を受けた子弟が本学へ留学することを支援する「琉球大学南米沖縄県系人留学生支援制度」を創設しました。こうした取り組みにより、本学のキャンパスはこれまで以上に国際色豊かになっていくことが期待されます。

研究面・地域貢献面では、教員の多様な活動を支え、教育研究力を強化し、県内の各機関との連携を深めて地域貢献につなげることを目指し、技術系職員がより高いレベルで活動する「総合技術部」を設

置しました。また、大学発スタートアップの創出・成長を目指す「Startup Lab Ryudai(琉ラボ)」を開設しました。地域の企業や地域社会と本学がより密接に関わる場として、そこに集う人の様々なチャレンジを後押しします。

これらの基盤としてDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組み、DXを通じて教育・学生支援、研究、医療、運営、そして働き方を大きく変革することを目指す「琉大トランスフォーメーション(RX)」推進プロジェクトにいっそう力を注いでいきます。また、医学部・病院の西普天間地区への移転については、2025(令和7)年1月の大学病院開院、同年4月の医学部開学を目指して、準備のラストスパートを駆けつつあるところです。素晴らしい新キャンパスが立ち上がることにご期待ください。同窓会の皆さまにおかれましては、本学と在学学生、卒業生そして地域を結ぶ要として、今後とも母校と後輩への篤いご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。同窓会のますますのご発展を祈念いたします。

2024(令和6)年1月吉日

2023 年度定期総会

2023年度定期総会を2023年7月29日(土)、ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城ホテルで開催しました。3年ぶりの開催で出席者は37名、また、定期総会前に支部長会を4年ぶりに開催しました。

総会に先立ち、奨学金授与式と出席者全員で琉大逍遙歌と琉球大学の歌を合唱しました。

総会は、体調不良で欠席した幸喜徳子会長に代わる渡久山秀治副会長あいさつ、西田陸琉球大学学長来賓あいさつ、議長団および議事録署名人選出後に議案審議に入りました。

〔議案内容〕

第1号議案「2022年度会務報告」

第2号議案「2022年度収支決算報告」

第3号議案「2023年度事業計画案」

第4号議案「2023年度収支予算案」

第5号議案「琉球大学同窓会創立70周年記念事業計画案」

議案審議では、出席者から、銀行口座表記の工夫、寄付者一覧表への寄付総額の掲載、総会出席者への同窓会誌配付、社会貢献活動の支援基準、記念事業組織図の具体的記載など、活発な質疑応答を経て第1号から第5号議案まで原案どおり承認されました。



2022年度決算・2023年度予算概要

2022年度決算(単位: 円)	
(1) 収入総額	60,285,706 円
うち会費収入	17,160,000 円
(2) 支出総額	12,482,298 円
①運営費	6,114,823 円
②事業費	6,261,619 円
③備品購入費	105,856 円
(3) 繰越金額	47,803,408 円

2023年度予算概要(単位: 円)	
(1) 収入総額	69,705,294 円
うち会費収入	16,000,000 円
(2) 支出総額	17,765,000 円
①運営費	8,400,000 円
②事業費	8,715,000 円
③設備積立等	650,000 円
(3) 繰越金額	51,940,294 円

2022年度特別会計収支決算(単位: 円)	
(1) 収入金額	4,650,073 円 (繰越金) 450,000 円
(3) 繰越金	4,200,073 円

2023年度事業計画

年 月 日 (曜日)	事業等の名称	関係者・担当者	琉大行事
2023年 6月 17日 (土)	三役会	三役	
22日 (木)	奨学生選考面接	三役	
22日 (木)	会計監査(2022年度決算)	監査員、三役	
24日 (土)	評議員会	役員	
7月 1日 (土)	留学生ホームビジット(第1回)	三役、関係者	
2日 (日)	留学生ホームビジット(第2回)	三役、関係者	
8日 (土)	留学生ホームビジット(第3回)	三役、関係者	
8日 (土)	奄美支部総会・懇親会	三役	
8日 (土)	八重山支部総会・懇親会	三役	
12日 (水)	芸術祭実行委員会	委員	
22日 (土)	三役会	三役	
29日 (土)	2023年度支部長会・定期総会	各支部長、役員	
8月 24日 (木)	教員試験対策講座終了 (4月5日から22回開催)	講師	
9月 9日 (土)	関西支部総会・懇親会	三役	
13日 (水)	会報編集委員会	編集委員	
16日 (土)	三役会	三役	
10月 5日 (木)	芸術祭実行委員会	委員、会長	
12日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
21日 (土)	関東支部総会・懇親会		
11月 9日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
11日 (土)	九州・山口支部総会・懇親会	三役	
18日 (土)	三役会	三役	
27日 (月)	久米島支部総会・講演会・懇親会	三役	
30日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
12月 2日 (土)	宮古支部総会・講演会・懇親会	三役	
14日 (木)	芸術祭実行委員会	委員、会長	
14日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
2024年 1月 6日 (土)	三役会	三役	
18日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
23日 (火)	同窓会と大学役員との意見交換会	大学役員、三役	
25日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
2月 8日 (木)	会報編集委員会	編集委員	
17日 (土)	沖縄寮歌・大学の歌祭り	同窓生	
22日 (木)	芸術祭実行委員会	委員、会長	
3月 6日 (水)	教員試験対策講座開講式	三役、講師	
中旬	会報発行(第46号)	会長・役員	卒業式
中旬	三役会	委員、会長	
下旬	チャリティーゴルフ大会実行委員会		
4月上旬	入会金納入案内	事務局	新入生オリエンテーション
9日 (火)	チャリティーゴルフ大会開催	三役	入学式
中旬	岸本正之氏顕彰碑記念日	三役、大学職員	
下旬	募金推進委員会(第2回)	委員、会長	
5月	三役会	三役	開学記念日
	留学生ホームビジット募集開始		

【備考】終了した行事は開催日を記載

● 2023年度 給付型奨学金事業

同窓会では、2019年度から経済的支援を必要とする学生の中から奨学生を選考して、返済不要の給付型奨学金を給付しています。

2023年度は、大学推薦の学生を面接審査して奨学生7名を選考し、7月29日の定期総会で奨学金を給付しました。

[2023年度奨学生]

千原奨学金 (年間60万円給付3名)

教育学部 4年次 平良 怜 南
理学部 3年次 浜元 琉 成
農学部 2年次 田代 梨理衣

芭蕉奨学金 (年間30万円給付4名)

国際地域創造学部 4年次 金城 笑 佳
教育学部 2年次 川瀬 瑞 穂
理学部 2年次 神谷 彪 天
国際地域創造学部 1年次 西村 花 心



奨学生紹介



奨学金授与式

「千原(せんばる)奨学金」を受けて



教育学部 4年次

奨学金を授与していただき、心から感謝しております。この奨学金は私にとって非常に大きな支援と励みとなりました。まず、

奨学金のおかげで、私は教育を追求する機会を得ることができるようになりました。学業に専念できる環境を整え、自己成長の機会を提供していただいたことに深く感謝しています。

この奨学金を活用し、私の学業の質を向上させることに専念しています。優れた体育指導者になるために必要な知識とスキルを磨き、人々の健康とパフォーマンス向上に貢献

できるよう努力しています。また、奨学金を受けて経済的な負担が軽減され、家族の生活費への貢献にもなりました。私にとって大変助かった上に、奨学金の恩恵を家庭全体で受けていることを誇りに思っています。

最後に、奨学金を希望する学生へのアドバイスとして、貴重な機会を最大限に活用することをお勧めします。奨学金は私たちの夢を実現するための一歩であり、その機会を大切にすべきです。

奨学金を受けて、私は自己成長と家族の支援に貢献できる機会を得ました。これからも感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって努力し続ける覚悟です。



理学部 3年次

このたびは、奨学生に採用していただきありがとうございます。奨学生としてより身が引き締まる思いです。この奨学金は、こ

れからの自分の勉強費用等に有効に活用しようと考えております。私は将来、高校の数学の教師を目指しています。数学をやっているときが一番時間を忘れられて、自分が楽しいと感じる瞬間であり、この楽しさを将来多くの人に伝えていき、数学の可能性をさらに広げていきたいと考えています。現在は、教員採用試験に向けた勉強に励んでおり、琉球大学同窓会主催の教員試験対策講座を受講することを考えていま

す。

これから奨学金を希望する学生の皆さんは、早めの情報収集が大事です。また、少しでも興味が湧いたら、チャレンジするのが一番良いです。できるだけ奨学金関係のお知らせはチェックし、どの奨学金に応募するか考えてほしいです。さらに、自分の将来の夢を持つことも大事です。自分の将来がはっきりすれば、そこに向かって頑張ることができます。学生生活を楽しみながら、自分の将来の夢を見つけられたらとても良いと思います。これからの学生生活、一緒に頑張っていきましょう。



農学部 2年次

このたびは、琉球大学同窓会の奨学金を授与していただき心から感謝申し上げます。奨学金の使い道としては、ま

ず生活費に充てます。私の家庭は貧しく、ひとり親でまともな生活ができない状況にあります。アルバイトの数を増やしすぎると学業に集中することができなくなるため、この奨学金を頂けるとなると、アルバイトの日数を増やさずに学業に集中できるようになりました。

二つ目に車の購入費用に充てます。自宅から大学まで遠

く、交通手段として車が必要であったためです。

将来の夢としては、現在昆虫や沖縄の自然環境について学んでいるため沖縄の自然に関する仕事に就きたいです。多くの人たちに昆虫をはじめとした生き物や沖縄の自然に関心を持ってもらうための分かりやすく面白い本の出版やワークショップ、保全活動に携わっていきたく考えております。

最後に改めて、琉球大学同窓会の方々のご厚意を心に留め、私も将来の目標のために頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

「芭蕉(ばしょう)奨学金」を受けて



国際地域創造学部 4年次

このたびは、このような機会を与えて下さり、奨学生として採用していただき誠にありがとうございます。頂いた奨学金は、授

業料にあてたいと考えています。授業料にあてることによってアルバイトに捉われることなく、勉学と部活に十分な時間をあてることができます。この機会を無駄にせず、充実した大学生活を全うすることで恩返ししていきたいです。

私の将来の夢は、動物の殺処分をゼロにすることです。幼い頃から動物と関わる機会が多く、たくさん助けられ、大好きになっていきました。そんな動物達を少しでも助けたいと長

年思い続けています。すぐに実現できることではないかもしれませんが、今のうちから学びを止めず、コツコツと努力を積み重ねていきます。

私のように奨学金を希望している方は、なぜ大学に通いたいのかなどを自分の中ではっきりさせ応募すると、思いがたくさんの方々に伝わるのではないかと思います。

改めて、琉球大学同窓会の皆様へ感謝申し上げます。

「芭蕉(ばしょう)奨学金」を受けて



教育学部 2年次

このたびは、琉球大学同窓会の奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は母子家庭で、来年度から妹

も四年制大学に進学するため、より一層家計が苦しくなることが予想されています。そのため、今回ご支援いただいた奨学金は来年度以降の学費に活用させていただきます。

私は、将来、特別支援教育に携わる教員になりたいと考えています。大学での学びを通して、特別支援教育は、障害の有無にかかわらず、多様な背景や何かしらの困り事を抱える

児童生徒のニーズに合った支援を行う教育のことで、その対象は全ての子どもたちであるということに感銘を受け、特別支援教育の必要性和意義を強く感じました。だからこそ、私は特別支援教育の持つ力を最大限に生かし、誰一人取りこぼすことなく、児童生徒を導いていける教員になりたいと思っています。そして、特別支援教育が『特別』ではなくなる未来を創っていきます。

面接にて、このような私の思いを真剣に聞いて下さり、「あなたのような先生がもっと増えてほしい」と温かいお言葉をかけて下さった同窓会の方々には感謝してもしきれません。この感謝を教育の力で社会に還元していけるよう、これからも精進してまいります。



理学部 2年次

(ひゅうま)

このたびは、琉球大学同窓会奨学生に採用していただきありがとうございます。

今回頂いた奨学金は学業生活

を維持するために大切にに使わせていただいております。

最近、物価やガソリンの高騰も含めて学生の一人暮らしを続けるのも厳しい世の中になっています。その時に同窓会奨学金制度に出会って、ぜひ応募したいと考えました。

私は数学の学者を目指して、日々勉強しています。理学部

の数理科学科ということもあり、実験等はなく、先生が黒板に向かって理論の説明をしてくださるのを必死に食いつきながら、理解につなげています。しかしながら、私はそのような素朴な理論の追求ということに感銘を受けることが多いです。また教職免許取得にも取り組んでいます。数学を教えるのも楽しく、教育の理論を学び、生徒に還元したいと考えています。そして、将来は琉球大学の理学部に就職できたらと考えています。

同窓会奨学金制度に応募するにあたって、私は今現在何がしたいか、そして将来どうなっていきたいかを真剣に考える良い機会になりました。

考え偏った食事や、家具など生活に必要なものが購入できない状況にありましたが、奨学金のおかげで食費も十分に賄うことができ健康的な生活をしており、生活に必要不可欠な家具などもそろえることができました。

将来は教師を目指しており、海外留学で得た知見をもとに子供達の未来を想い世界の広さを伝え、感動を与えられる教師になりたいです。こうして私を支えて下さった皆様へのご恩と感謝を忘れず、奨学金を受けた者としてより一層まい進してまいります。

同窓会皆様のみますますのご発展をお祈りし、略儀ながら御礼の辞とさせていただきます。

● 教員候補者選考試験対策講座

同窓会では、在校生および卒業生の就職支援事業として、沖縄県教員候補者選考試験対策講座を2023年4月5日から8月24日まで計22回開催しました。

講座は、経験豊富な講師9名により、過去の試験内容に基づき1次試験対策、2次試験対策、模擬授業、面接指導等を行いました。

受講者数は73名(内受験予定65名)で、最終合格者は21名(同窓会把握分)でした。

次回講座は2024年3月開講予定で、在校生および卒業生の皆さまの受講を歓迎します。

なお、受講料は無料で、講座日程は事前に同窓会ホームページに掲載します。

[対策講座問い合わせ先]

琉球大学同窓会事務局 ☎098-895-8039

Email : dousou06@jim.u-ryukyu.ac.jp



講座「受験調書等書き方指導」



模擬授業(小学校国語)



模擬授業(中学・高校国語)



面接指導状況



模擬授業(高校英語)



講座資料(例)

教員候補者選考試験合格体験記



教員試験合格体験記 (高校英語)

国際地域創造学部
国際地域創造学科
4年次

2023年度沖縄県教員採用試験高校英語に合格することができました。

沖縄県は全国的に見ても教員採用試験の倍率が高いですが、私が無事合格できたのは、紛れもなく琉球大学同窓会の皆様そして琉球大学キャリアセンターが提供してくださった試験対策講座と琉球大学教授の皆様のおかげです。

1次試験対策では、4月から二つの講座に参加し、アドバイスをもとに頂いた資料、問題集を解きました。個人的に沖縄県教員採用試験の過去問題が12年分掲載されている本も購入し勉強しました。講師と私からのアドバイスとして、1次試験は問題の傾向をつかむまで、できるだけ多くの過去問題を解き、その後同じ傾向の過去問題や予想問題を何度も解くことがコツです。また、私の専門科目は英語ですが、感覚的

に英検1級・準1級レベルだったので、過去問題と英検の問題集を解きました。

2次試験対策では、模擬授業と面接の練習をしました。専門科目英語の2次試験では、模擬授業、日本語面接、ALTの英語面接があります。琉球大学同窓会の講座では英語の模擬授業を見ていただきました。加えて琉球大学英語教育の先生にもご指導頂き、模擬授業の質の向上に努め、回数をこなしていくうちに慣れていくことができました。

2次試験は、面接官の質問にしっかり答えられること然り、答える意欲があるか、面接中も面接官と「会話」ができるか、そして教師としてふさわしい人間性を持っているかどうか判断されていると思います。

受験生の皆さん、堂々と2次試験に挑めるよう、琉球大学が提供しているこのような講座を最大限活用し、自信が付くまで何度も練習を重ねてください。

琉球大学同窓会の皆様、私たち未来の教員のためにこのような講座を提供していただき、誠にありがとうございました。これから先、沖縄の子供たちのため、そして大好きな沖縄のために教師として全力を尽くします。本当にありがとうございました。

とでよりよい授業をつくることができました。対策講座では、講師の先生が丁寧に模擬授業を見てくださり、自分の模擬授業を撮影しておくことで、先生からいただいた助言と照らし合わせながら理解したり、目線の配り方や抑揚の付け方、身振り手振りなどを客観的に振り返ることができました。

国や県の施策については、最新の情報を得たり資料をいただいたりすることができたので、自分での学習に役立てることができました。

また、さまざまな学部から学生が参加していることで他の学生の頑張っている姿を見て刺激をもらい、モチベーション向上にもつながりました。

教員採用試験に向けての対策期間は長く自分との闘いになるので、大変だと思ったり壁にぶつかったりすることもあると思います。ですが、教師になった自分や子ども達と関わっていることを想像すると、わくわくいっぱい気持ちで勉強に励むことができると思います。自分がやれることはやり切ったと言えるくらい努力することで、自信を持って試験本番に臨むことができると思います。周りへの感謝の気持ちを忘れずに、自分を信じて頑張ってください。

応援しています！



教員試験合格体験記 (小学校)

教育学部学校教育専攻
子ども教育開発専修
4年次

教員候補者選考試験対策講座を開講して下さった同窓会の皆さま、講師の皆さま、そして、いつも励まし応援して下さった大学の先生方、本当にありがとうございます。

教員採用試験1次試験に向けて、参考書や問題集などを使って勉強をしました。解けた問題、解けなかった問題が分かるようにマークをしていくことで、自分の苦手を知ることができ、解けていない問題を何度も重点的に学習することで点数アップにつながっていきました。対策講座では、過去の出題傾向も踏まえて学習内容が組まれているので、講座に参加することで押さえるべき事項を徹底的に学習することができました。

2次試験に向けては、いろいろな環境で授業をして場数を踏むことで自信を持つことができ、できる限り多くの先生方や恩師に模擬授業や面接をみていただき助言をいただくこ

2024年1月23日、大学から西田学長と福治副学長、同窓会から幸喜会長、当真副会長、仲松副会長、喜屋武事務局長が出席して意見交換会を開催しました。

学長からは学生及び大学支援に関する謝意と支援継続の要請や大学が目指すデジタル技術を活用した教育プロジェクトの説明があり、同窓会長は創立70周年記念事業（募金活動、チャリティゴルフ大会、講演会等）説明と支援要請を行い、共に支援していくことを確認しました。

また、同窓会の給付型奨学金制度の浸透を図るため、経済的に困窮する学生の実態把握や推薦のあり方について意見を交わし、学生支援の重要性を再認識する場になりました。



大城純市法律事務所

弁護士
弁理士 大城 純市

弁護士 大城 陽菜

〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎1丁目3番7 泉崎レジデンス2階
TEL (098)860-8404 FAX (098)861-8369

2023年3月にご逝去された当会名誉顧問岸本正之氏を悼み、同年5月18日、琉球大学50周年記念館において、同窓会と大学合同での「岸本正之氏顕彰碑記念日セレモニー」を執り行いました。セレモニーにはご親族、ご友人、同窓会や大学の関係者約70人が参列しました。

セレモニーでは、幸喜徳子同窓会会長、西田睦学長、大城肇前学長があいさつに立ち、追悼の言葉のほか同氏の多大な功績をたたえました。また、岸本多摩子様(岸

本氏ご夫人)からのメッセージを米国から来県したジェイソン山本様が代読され、その後、代表者による献花、奉納舞踊、そして、故人の思い出深い曲「琉大逍遙歌」と「故郷(ふるさと)」を全員で斉唱しました。折しも前日に梅雨入りの報があり、激しい雷雨の中、セレモニーは進行し、最後は、岸本氏と親交の深かった瀬名波栄喜様、安里祥徳様、実弟の岸本正治様があいさつして終了しました。



献花台



代表者による献花



斉唱



奉納舞踊



参列者の皆さま

1934年 名護市生まれ

1957年 琉球大学英文科卒業(5期)

1961年 フルブライト国費留学生として渡米

1963年 メリーランド大学・大学院修士号取得

1965年 日本航空入社、以降25年勤務

1997年 ナショナル・トロピカル・ボタニカルガーデン
(米国国立熱帯植物園) 元理事

1998年 シーコロジー・ファンデーション(米国) 理事

1999年 KFI 岸本ファミリー・インターナショナル(米国:シアトル) 創立

2003年 インティチュート・フォー・エスノメディスン(米国・ポールコックス博士設立)

2007年 岸本ファミリー個人慈善基金(米国)を創設。交易プロジェクトに累計約4億円、
ユニバーシティ・エンダウメント(遺贈基金)に約7億円を寄付

2009年~アフリカ、マラウィのミタリマンジャ・自立ファミリー農学校(ASAFI)において、
延べ22ファミリーの留学を支援

2016年 母校琉球大学に「岸本遺贈基金」を設立(総額7億円)
琉球大学より名誉博士号拝受

[参考] 母校キャンパス植栽支援

2008年~2009年 母校キャンパス内に寒緋桜約300本を植樹

2015年以降、毎年、同窓会に寄付を継続



留学生に沖縄の文化や生活習慣への理解と親しみを持ってもらうことを目的とした「琉球大学留学生ホームビジット」を2023年7月1日(土)、2日(日)、8日(土)の3日間開催しました。

本催しは、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、4年ぶり2回目の開催となりました。今回は、ホストファミリー9名が留学生7カ国20名を分担し、自宅に招いて料理を一緒に作ったり、食事をしながら談笑したり、また、博物館、中城城址、識名園、玉泉洞、平和の礎、新聞社等の案内や浜比嘉島でのカヌー体験などを通して沖縄の食文化、歴史、生活習慣を紹介し、参加留学生からも「参加して良かった」等の声が多く寄せられるなど成功裏に終了しました。

以下、参加者の感想を紹介します。

[ホストファミリーの感想]

- 留学生は日本語が上手で礼儀正しく、好感が持てた。
- 留学生の国や食文化の話は新鮮で興味深く、家族共々楽しいひと時だった。
- 料理実習(体験)をととても喜んでくれた。次回も沖縄料理を一緒に作りたい。
- 次回は見学先をホストファミリーから事前に提案して留学生を募ってみてはどうか。

[参加留学生の感想]

- ホストファミリー家族と一緒に過ごし、その家族の一員になれたようで楽しかった。
- ただ遺跡を見るのではなく、地元の人が説明してくれて、本当に良い勉強になった。
- 私の故郷には海がないので、海で遊ぶことができ本当に良かった。
- 初めて沖縄の人の自宅を見学してリアルな「生活史」に触れたことは大切な体験になった。
- 私の食事制限や礼拝時間を気にかけてくれて胸が熱くなった。次回も参加したい。
- ホストファミリーから「いちゃりばちょうでい」という沖縄の方言を覚えてもらった。
- 料理をいっぱい食べ、ゴーヤーチャンプルーの作り方も教えてくれて忘れられない体験だった。

留学生ホームビジットの次回開催は、2024年6月に予定しています。
具体的な日程や内容は同窓会ホームページで案内します。皆さまの応募をお待ちしています。



2023年7月1日(土) 開始式集合写真



別のホストファミリーグループも合流して会食



サーターアンダギー作りに挑戦



浜比嘉島の海を楽しむ留学生



「私の故郷には海がないので、海で遊ぶことができ本当に良かった」と感想を話す中国からの留学生



7月8日(土) ホームビジット集合写真



「初めて沖縄の人の自宅を見学してリアルな生活史に触れたことは大切な体験になった」と留学生から感想が聞かれたホームビジット

支部長・事務局長連絡先

支部	名称	氏名	電話番号	住所・Eメールアドレス
関東	支部長	高山厚子	03-6226-2200 (中島信一郎法律事務所)	〒104-0061 東京都中央区銀座 4-9-6 陽光銀座三原橋ビル 6F (中島信一郎法律事務所内) takayama2002atsuko@yahoo.co.jp
	事務局長	金城利光	080-5020-4369	ryudai.kanto@gmail.com
関西	支部長	裁 亀吉	080-5317-2830	〒639-2131 奈良県葛城市林堂 344-4
	事務局長	海勢頭 聖	06-6674-5841	〒559-0006 大阪市住之江区浜口西 2-11-6-203
九州・山口	支部長	松下博文	092-925-9160	matusita@chikushi-u.ac.jp
	事務局長	四郎丸 治	090-1346-4682	〒820-0064 福岡県飯塚市津島 405-2 ピアノカ 2-102号 shirou@ka2.so-net.ne.jp
奄美	支部長	奥田敏文	090-9590-8602	〒894-0047 鹿児島県奄美市名瀬大字知名瀬 2504 愛の浜園 too@po.synapse.ne.jp
	事務局長	藤本 修	090-4349-3316	〒894-0025 鹿児島県奄美市名瀬幸町 25-8 奄美市役所農林水産課内 off@bronze.ocn.ne.jp
久米島	支部長	儀間周倫	098-985-8956	〒901-3105 久米島町字根 54
	事務局長	平田光一	090-9782-5663	〒901-3115 久米島町字儀間 494
宮古	支部長	根間俊明	090-2464-6022	〒906-0011 宮古島市平良字東仲宗根添 909-5 nema@themis-ocn.ne.jp
	事務局長	平良雅則	0980-72-9860	〒906-0012 宮古島市平良字西里 675-3 qqh47349k@rondo.ocn.ne.jp
八重山	支部長	宮良永秀	090-6865-5536	〒907-0243 石垣市字宮良 232-10 myarinda4617@yahoo.co.jp
	事務局長	入嵩西 義晴	090-4580-0376	〒907-0013 石垣市浜崎町 2-5-2 シーナト 黄花 102号 125iyoshi@kvp.biglobe.ne.jp

関東支部

支部長 高山厚子



関東支部は、2023年10月21日、日本橋の日本教育会館にて4年ぶりに総会・懇親会を開催致しました。ご多忙の中、西田睦学長・本部同窓会の幸喜徳子会長・喜屋武正志事務局長にご臨席賜りました。会員の参加は、例年の半分ほどですが、それでも、約40人の参加の下、西田学長より、琉球大学の未来像のお話や本部同窓会長から活動報告のほか当支部への活動資金の贈呈を賜りました。

当支部は、コロナ禍の中でも、中島法律事務所のご協力の下、幹事会を行い、支部の方針を検討。23年度は、2度幹事会を開き、総会当日を迎えることができました。

久しぶりの開催に、皆さんのうれしそうな顔が印象的でした。

例年ですと、前半に、講演をお願いしていたのですが、今

回は、若手の遠藤憲吾さんの三線と元気な歌声で幕開けし、参加者一人一人に、近況報告の1分間スピーチをお願いしました。また、会場の席も、本来なら、前に御来賓席を設定するのですが、今回は、学長や本部の方々を囲むようにして、会員が来賓と直接、お話ができるように設定。西田学長の教え子なども初めて参加するなど、卒業生の多くが関東という地で頑張っている姿を垣間見ることができた会となりました。

「10月第3土曜日は琉球大学同窓会関東支部の日」と位置づけ、24年度も既に会場を押さえております。関東だけでなく、どうぞ、他の支部の皆様との交流も深めたいと思いますのでご参加いただけると、さらに、同窓生の絆が深まると思います。

関西支部

支部長 裁 亀吉

2023年は、3度に及ぶ中止を経て4年ぶりとなる支部総会の開催を持つことができました。長く悩まされてきた新型コロナ禍でしたが、ここへ来てようやく休眠状態だった支部活動も再開することができるようになりました。従来は7月に実施しておりましたが、新型コロナの5類への移行が5月にあり、そこからの役員活動再開となったため時期をずらして9月の開催です。幸いいつも会場としてお世話になっている沖縄料理の店「おもろ」もなんとかコロナ禍を乗り越えておられ、変わらない料理の数々を懐かしい会員の皆さんと楽しむことができました。残念ながらこの間、3人の顧問の方を含め亡くなられた方もおられ、また高齢その他の事情により退会された方も少なからずおられました。しかしながらまた、新たに支部会員として登録された方もおられ、今年は2人の新会員の方が加わり、総勢20人の参加でにぎやかな会になりました。また、大学からは福治副学長が、同窓会からは大城副会長と喜屋武事務局長がご臨席され、母校琉球大学の最

新の成果と取り組みや同窓会の70周年記念事業などをご紹介いただきました。さらに関東支部から高山支部長がご参加くださり、交流を深めることができました。

11月にはコロナ前には毎年実施していた秋の昼食会を、こちらも4年ぶりに開催し、奈良県宇陀市の大宇陀地域を訪ねました。宇陀市は日本最初の薬膳の地で「薬のまち宇陀」と呼ばれているところです。また、宇陀松山城の城下町は江戸時代から続く伝統的な建造物群が並び重要伝統的建造物群保存地区に選定されているところで、食事のあとには散策を楽しむことが出来ました。今年の昼食会には滋賀や名古屋からの参加者もあり、15人の参加で親睦を深めました。関西支部ではこの他に支部会報の発行を行っており、こちらはコロナ禍の間も毎年発行することが出来ました。2024年は、例年通り7月に総会・懇親会を開催の予定です。近畿近隣にお住いの同窓会員の皆様のご参加をお待ちしております。



総会・懇親会 (9月9日)「おもろ」にて



秋の昼食会 (11月23日) 奈良県宇陀市にて

2023年度（第19回）支部定期総会・懇親会は、11月11日（土）、同窓会本部から幸喜徳子会長、喜屋武正志事務局長、大学から福治友英副学長ご臨席のもと、会場をこれまでの博多上呉服町の「たびんちゅ」から西中洲の「水炊き芝」に変更して開催されました。幸喜会長のお顔が見られてとても元気がなりました。

総会では23年度の活動報告および決算報告、24年度の前算案・活動案が上間副支部長より示されました。またコロナで延び延びになっていた鹿児島市内での奄美支部との両支部合同懇親会の開催も再提案され、開催に向けて準備を進めていくことになりました。台風シーズンを避けて11月を予定しています。恒例のミニ講義は「奄美群島復帰70年目を取材して」と題して西日本新聞くらし文化部記者の丸田みずほさんにご講義いただきました。奄美群島は1946年1月29日のGHQ覚書によって北緯30度以南のトカラ列島、奄美群島、沖縄諸島が日本から分離され、奄美群島は53年12月25日に日本に復帰しました。復帰から70年一奄美市高千穂神社での断食祈願、詩人泉芳朗の活動、沖永良部島と与論島との二島分離返還騒動など関係者を丹念に探し歩

きながら薄れいく復帰の記憶を丁寧につなぎあわせようとする取材姿勢にたいへん感銘を受けました。

会場是那珂川の川沿いにある九州一の歓楽街のど真ん中。中洲のネオンと夜景が一望に見渡せる最高のロケーションを楽しみながら、お店自慢の鳥鍋、店主に頼み込んで特別に取り寄せたオリオンビールと泡盛、本部同窓会からの「琉球大学の泡盛」の差し入れ、いつもと変わらず、わいわいがやがや、親睦を深めました。参加者には沖縄から届けてもらった「サーターアンダギー」と「伊江島名産黒糖ピーナッツ（山城製菓）」をお土産としてお渡ししました。

今年度の参加者は1961年入学生から2014年入学生までの30名（山口1名、福岡13名、佐賀3名、大分3名、熊本3名、宮崎1名、鹿児島2名、沖縄・四国からの飛び入り4名）。ご来賓を含めて34名の集まりとなりました。来年度は奄美支部との合同懇親会を開催予定です。長らくご無沙汰の方も、しばらくご無沙汰の方も、毎年ご参加の方も、友人・知人をお誘い合わせの上、ぜひともご参加いただきますようお願い申し上げます。お会いできますことを楽しみにしております。



奄美支部においては、2023年7月8日に奄美観光ホテルにおいて支部総会を開催しました。奄美支部は、喜界島、奄美大島、徳之島、沖永良部島および与論島に点在するため、多くの会員が参加できませんが、総会には22名の会員にご参加いただきました。

総会では、4年間の活動をまとめて報告するとともに、今年度の活動方針等を承認いただきました。特筆すべき点は、故大津幸夫顧問から要望がありました30年記念誌発行ができたことが挙げられます。30年の活動は、支部の活動のみならず、本部および他の支部のご支援によるものでございますので、記念誌を皆様にもご覧いただきたいと思い、後日お送りさせていただきます。

総会終了後には、交流会が開催されました。交流会には、来賓として安田壮平奄美市長にご臨席を賜り、「奄美市では、長く沖縄県に職員を研修派遣しており、沖縄とのつながりをさらに深めてまいりたい」とのお言葉をいただきました。同窓会本部からは、喜屋武事務局長にお越しいただき、総会開催のお祝いと連帯のお言葉をいただきました。また、同窓会の会員である晨原弘久（あさはらひろひさ）大和村教育長から

も、在学時等の思い出話を語っていただきました。会員相互の親睦も深まった会となりました。

7月29日、那覇市内のホテルで行われた同窓会支部長会・定期総会に、支部長である小生が1名で参加しました。飛行機のチケットが取れず、福岡経由で沖縄入りをする事となり、本部事務局には大変ご迷惑をおかけしましたが、初めての支部長会・総会における先輩諸氏の情熱的で活発な意見に圧倒されました。本部同窓会の頼もしさを痛感しました。

本来であれば、支部に所属する全ての地域（島）を訪れ、協力いただいている会員にお会いして、寄付のお願い等をすべきところですが、雑事に翻弄され、それもかかないませんでした。

今後とも、支部会員の協力をいただきながら、会員の親睦を図るとともに、本部の推進する活動方針等を説明したいと考えております。本年も奄美支部をよろしく願いいたします。



2022年11月に2022年度支部総会を開催し、活動を開始しました。

2023年2月に琉大国際地域創造学部との協力で、久米島セミナーが開催されました。セミナーでは、久米島の農業と文化「学んで、語り合う、伝える」久米島の魅力再発見をテーマに、「学(琉大)、官(久米島博物館)、産業(大麦栽培、コーヒー栽培、ビール醸造)」の取り組みが報告されました。

そして3月に、琉大国際地域創造学部久米島ワークショップが開催され、懇親会で情報交換が行われました。7月には久米島町教育委員会や小中学校長等と意見交換会を開催し、島の教育課題や学校統合等について、熱心に意見が交わされました。

11月27日に2023年度支部総会が開催され、本部から幸喜会長、仲松副会長のご出席を頂き、活動への激励、講話、懇親会での交流等、実りある支部総会の開催ができました。

開会行事の講話では、地元で海洋深層水等を活用し化粧品製造販売事業を展開している、久米島出身の株式会社ポイントピュール大道敦社長を講師に迎え、「起業から現在と琉大卒業生採用について」と題して講演していただきました。創業時7名の従業員から現在70名規模までの事業拡大や、研究開発の中枢に琉大卒業生の4名が活躍していること、そして今後も大学と連携し専門知識を大いに活用したいとの話がありました。それに対し幸喜会長から激励とお礼の言葉が述べられました。

2025

2025 11 2024

- ① 支部総会 (11月27日)
- ② 本部定期総会へ参加
- ③ 新会員歓迎会、激励 (人事異動期、総会等適宜)
- ④ 大学、町内各学校、関係団体との連携
- ⑤ 親睦レクリエーション (パークゴルフ大会、その他)
- ⑥ 琉大合格者、在学生の激励 (連携、交流会)
- ⑦ その他 (臨機応変に対応)



琉大同窓会宮古支部は、会員相互の親睦、琉球大学との連携、地域の子供教室を主体に活動しています。コロナ禍での数年は思うような活動ができませんでしたが、本年度再開できた活動を報告します。

I

2023年12月2日(土)、レストランのむらにおいて4年ぶりに支部総会、講演会、懇親会を開催しました。

総会では提案された全議案が原案どおり承認され、役員改選では、支部長 根間俊明、副支部長 国仲富美男、池間弘明、監事 長濱博文、横田安奈、事務局長 平良雅則、事務局員 長濱幸男が選任されました。

また、西田睦琉球大学学長と幸喜徳子同窓会長が来賓祝辞を述べ会員を激励しました。

総会后、前里和洋(宮古島地下水研究会共同代表、農学博士)氏による講演会(演題:化学農薬や化学肥料に頼らな

い持続可能な循環型農業について)を開催しました。前里博士は講演で「近年、命の水である地下水は化学農薬や化学肥料で汚染されている。宮古島はすべての生活用水を地下水に頼っているため、地下水保全地域を島全体に拡大して持続可能な循環型農業を確立することが課題である」と強調しました。

II

2023年12月22日(金)、富名腰自治会健康広場において親睦グラウンドゴルフ大会を開催しました。当日は、その年一番の寒波襲来で気温15°Cでした。3ゲーム予定が北風と寒さのため2ゲームで切り上げ懇親会場へと移動しました。

懇親会では、首里キャンパスの思い出話で花が咲きました。



2023年12月2日(土)定期総会後の記念撮影



2023年12月22日(金)親睦グラウンドゴルフ大会

八重山支部

支部長 宮良 永秀

2023

3 15

県立八重山高等学校から琉球大学へ合格した12名にお祝い金を贈るとともに、眞榮田義功支部長(当時)が、「夢や希望もあるが、不安もあると思う。苦しくなった時は、八重山支部がサポートする。将来、地元に戻って来て地域に貢献してほしい。皆さんの活躍を石垣島から見守っている」と、激励のことばを贈りました。

定期総会・懇親会には30名の会員の参加がありました。定期総会において、宮良永秀支部長他、新役員が決定しました。

懇親会では、同窓会本部から大城純市副会長が出席してください、会員の皆さんも久しぶりの集いを喜び、楽しそうに話をしていました。

また、合唱の場面では、「安里屋ゆんた」「島人ぬ宝」を和やかに歌った後、「琉大逍遙歌」を高らかに斉唱し、盛り上がりました。

7 8

2023

[新役員] 支部長 宮良 永秀
副支部長 嘉良 寧、真久田 絹代、仲皿 利治
事務局 入嵩西 義晴

3年ぶりの開催で、親睦グラウンドゴルフ大会には16名、



沖縄の方言で命のことを「ぬち」
塩のことを「まーす」と言います。
生命に必要なミネラルに着目し
「命」の「塩」(ぬちまーす)と名付けました。
ぬちまーすの原材料となる海水が取水される宮城島は
沖縄本島と海中道路で結ばれ
タカハナリ(高離)とも呼ばれる標高100m前後の高台の島です。
沖は流れが速く圧倒的な透明度を誇ります。
その宮城島の太平洋側の海水のみを原料とし
独自製法「常温瞬間空中結晶製塩法」で
海のミネラルたっぷりの塩を作りました。
輸入塩、固結防止剤等の添加物は一切使用しておりません。

ぬちまーす
沖繩県うるま市与那城宮城 2768
TEL 098-983-1111 / FAX 098-983-1112
www.nuchima-su.co.jp

宮城島
miyagi island
緯度 026°21'48.00"
経度 127°58'18.00"

POINT PYURU
沖繩の自然から「美」を創造する

DEEP SEA WATER
From Kume Island

琉球大学卒業生も弊社で頑張っています!

化粧品・医薬部外品製造業 / 製造販売業
株式会社 **ポイントピュール**
沖縄県島尻郡久米島町字真謝 486-12

Online Shop

Ryu Spa. | OKINAWA COSMETICS

interview



インタビュー

沖縄県 副知事

(62)

1986 年卒 34 期 法文学部法政学科 法律専攻

■サークル活動、アルバイトについて

高校時代の友人に誘われてバロック合奏団に入部しました。それまで音楽には全く無縁でしたが、「ピアノは素人でもできるよ」と言われ、活動を始めました。毎年定期演奏会はありましたし、また、年末恒例のメサイヤ演奏会にも一度は出演させていただき、とても思い出深い経験です。

アルバイトは、2年次と3年次の頃にホテルのフロント業務(夜勤)をやっていましたし、交通量調査もやりました。いづれも肉体を使うアルバイトですね。ホテルでの経験は、サービス業を知ることができるいい機会になりました。

■大学卒業後はどのような進路を

卒業後はすぐに沖縄県庁に就職することができました。八重山支庁(現八重山事務所)総務課がスタートでしたが、同じ課に謝花喜一郎さん(前副知事、琉球大学出身)がいらっしゃいました。その後は本庁の総務部財政課(3回)、企画部市町村課、知事公室防災危機管理課などを経験しました。60歳定年の年に副知事を拝命しました。在職期間に自治省(現総務省)で1年間研修、それから民間企業との人事交流で、県内の金融機関でも働きました。

■琉大の後輩たちにアドバイスを

学生時代にしかできないことをやってほしいですね。例えば2、3カ月海外に旅に出るとかですね。一度も外の経験がない方がいますが、違う世界に行ったらもっと見識が広がるのになあと感じます。大学にいるわけですから夏休みなどを使って旅行に出て認識を広めたり、短期留学など経験したらいいと思います。後の人生が豊かになるのではないのでしょうか。また、私自身、就職してみてもはじめて地元沖縄の歴史、文化や農業のことなどでほとんど知らなかったと痛感しています。そういう意味で学生時代には沖縄のものに触れることも大事だと思います。

それから、今も大学時代の友人と模合をしています。大学は一生の付き合いが育まれるところ。それが、学生時代を過ごす良さですね。

■最後に座右の銘を教えてください

「至誠通天」ですかね。誠の心を尽くして行動すれば、いつかは必ず天に通じ認められるという意味ですね。元々中国の儒学者・孟子の言葉ですが、幕末の志士、吉田松陰が好んで使った言葉と言われています。

琉球大学を卒業した後、各方面でご活躍中の同窓生を紹介します。今回は沖縄県の池田竹州副知事、沖縄女子短期大学の金城靖子学長に学生時代の思い出や卒業後の活動などについてお聞きしました。
(編集委員長・上原 修)



沖縄女子短期大学 学長

(54)

1992 年卒 40 期 法文学部社会学科 心理学専攻

■入学の動機を教えてください

心理カウンセラーという専門職の存在が社会に認知され始めた頃、私は高校生だったと記憶しています。琉大には心理学専攻があり、海外から帰ってこられた東江平之先生や中村完先生がおられ、素直な気持ちで進学を決めました。私は名護市出身で高校入学(沖縄尚学)時から親元を離れたましたが、心理学教室の先生方は、親身になってご指導いただき現在もその関係は続いています。

■大学ではどのような学問を

私は元々、カウンセラーやコミュニケーション、人間関係に関することに興味がありました。心理学は本だけでは分かりにくいところがあります。行動に移して始めて実学になる。自分の行動に置き換えて考える。日常生活に落とし込んで考えることで身近になる学問だと思っています。

指導教官には「洋書や専門書を読みなさい」とよく言われました。友人とページをめくり、精いっぱい英語の専門書を読みました。大きなストレスと共に大きな喜びも味わいました。心理学の先進国の、最先端を読まれたと思いましたね。心理学教室の同期生は4人が大学院に進学しました。向学心が高かったと思います。それは大学時代の学びがあつてこそですね。先生方にも友人にも恵まれていました。

■卒業論文のテーマは

テーマは「大学志望動機と親子関係」でした。世間ではよく「親の職業が子どもに影響する」と言われますが、そのロールモデルは親子関係が大きいのか。あるいはそうではなく、むしろ反面教師にならないか、とも考えました。そして、きょうだいでも違うのか、また親子間の社会的な影響力がどのように係るのか、など調べました。

■実際の作業は

医学部を含め各学部の学生約300人にアンケートを実施しました。統計処理など数字をまとめる際には先生方の協力も得ました。今のように各自がパソコンを持つ時代ではなかったため、大学のパソコンを学生同士、順番待ちで使用していました。その過程で忍耐力が養われたと思いますし、また誰かと協力することの大切さを学びました。大学では夜遅くまで作業をしましたが、先生がコーヒーを入れてくださるなど、アットホームな思い出がありますね。

■サークル活動にも参加しましたか

ゴルフ同好会に所属していました。「何かやりたい」「新しいことにチャレンジしよう」と入部しました。同好会は工学部

の先輩たちが立ち上げたと思いますが、男女で20～30人はいました。週2回ほどの活動で、西原町の森川ゴルフレンジやショートコースに出かけました。当時は経済がバブルの時代で、みんなキラキラして、楽しく勢いがありましたね。

■アルバイトも?

家庭教師のアルバイトをしました。小学生から中学生まで教えていましたが、振り返るといい思い出ですね。

■大学院などその後の進路は

お茶の水女子大学大学院人文科学研究科で心理学で学び、沖縄に帰ってきて、県内の大学で非常勤講師を務めました。スタートは今の沖縄女子短大です。その後本土の大学病院で学び、精神心理研修を受けながら関東の児童相談所勤務を兼ねました。その後、27歳の時にお茶の水女子大の博士課程に社会人入学しました。その間2人の子どもを出産し、休学や復学を繰り返し、夫や家族の協力を得ながら卒業しました。

■沖縄には

30歳を過ぎたころ、ご縁があり、沖縄女子短大に迎えられ、採用当時は、児童教育学科の講師としてスタートしました。その後総合ビジネス学科へと転学科となり、教授職を務めています。沖縄女子短期大学は職業教育機関で、社会直結型の性格を有しています。一人一人の学生が責任をもって大人になっていく。私たちはそこを教育する役割があります。

■昨年4月から学長に

多様化した時代、未知の世界に学生を送り出す状況で学長に就任しました。SNSがない時代を過ごしてきた私にとって、人と人とのつながりがいかに大事か、共感する気持ちで学生たちを育てたいと思っています。

「18歳」が大人の年齢になり、短大の環境も変わってきています。少子化であり、大学も特色と魅力を備えたものにしていかなければなりません。私に与えられた仕事は山積しています。近頃は短大から4年制大学へ編入する学生や社会人入学も増えてきました。そういう方面での魅力ある大学づくりも必要ですし、とにかく新しい時代の沖縄女子短期大学を模索しています。

■琉大の後輩たちにアドバイスを

いろいろなことにチャレンジして、活動を継続してほしい。そのタイミングは自分で見つけて、それをチャンスとして引き寄せることです。柔軟性を持ち、いろんなことに取り組んでほしいですね。

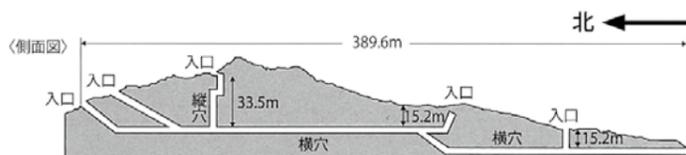


坑道内の模型図
(イメージ図)

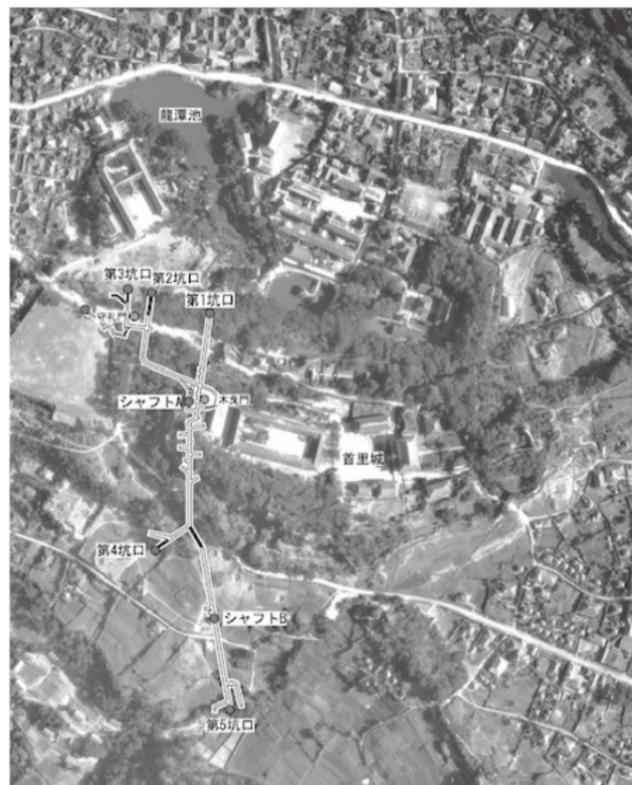
2019年10月31日未明に発生した火災で焼失した首里城正殿は、2026年の再建に向けて順調に工事が進んでいます。その再建中の首里城の地下に、先の沖縄戦の際に日本軍により造られた「第32軍司令部壕」の戦争遺跡が眠っていることを知る人は少ないでしょう。豊見城にある旧海軍司令部壕はよく知られていますが、本土防衛のために少しでも長く沖縄戦を続けるため、それよりも更に大規模な地下壕が首里に構築されました。

太平洋戦争末期、南方の戦況が悪化すると、1944年10月には、米軍による那覇の「10・10空襲」がありました。本土防衛の最前線となる沖縄に配備されていた、陸軍第32軍は当初、南風原津嘉山に司令部を置く予定でした。しかし、那覇の大空襲を受け、急遽予定を変更し、米軍上陸の際のゲリラ戦に備えるべく、1944年12月から翌年3月にかけて首里の高台にある首里城地下に第32軍司令部壕を構築したのです。壕掘りには、軍の兵士のみならず沖縄師範学校などの学徒や付近住民も動員され、着工から僅か3カ月ほどで完成しています。

司令部壕には5つの坑口（出入口）と2つの立坑（換気口）があり、坑道は守礼門から木曳門の地下を経て首里金城町（現、沖縄芸術大学3号館の裏手）まで南北に約400m。アリの巣状に張りめぐらされた坑道は全長約1000m、高低差50m、地下15mから35mに掘られた坑道は、天井高1.8m、幅1.5m～2.4mで湿気に満ち換気の悪い地下壕でしたが、当時1000余名の兵士が常駐していたといわれています。



地下壕の断面図



第32軍司令部壕の位置図

1945年4月、米軍が沖縄本島に上陸すると、司令部があった首里地区は、米軍の激しい攻撃により首里城も含め完全に破壊されました。このため、第32軍司令部は、5月末、壕の構築から僅か2カ月ほどでこの地下壕での最終決戦を放棄し、住民が避難先としていた南部摩文仁へ撤退したため、多くの住民を戦禍に巻き込むこととなります。その状況は、映画「ひめゆりの塔」（1958年、1982年、1995年と3度公開）や最近では、当時の島田県知事の奮闘を描いた映画「島守の塔」（2023年公開）などで描かれているので、ご存じの方も多いでしょう。

首里は米軍に占領されましたが、日本軍は南部撤退の際に全ての坑口と司令官室等があった重要な内部の坑道を爆破したため、埋没されたままです。しかし、驚くことに米軍は、爆破された坑道を試掘・調査し、緻密な復元図面を残しています。その後の本土進攻を想定し、日本軍の地下壕の構造等を把握するという意図があったようです。第32軍司令部壕の現状は、第5坑口と

その先の一部の坑道が確認できる程度でその内部は公開されていません。

第32軍司令部壕の整備保存・公開に向けた動きはこれまでも何度かありましたが、第5坑口以外の4つの坑口は完全に埋没していることや複雑な坑道の構造、加えて財政的な問題もありその度に頓挫しています。

1996年に広島「原爆ドーム」がユネスコの世界文化遺産に登録されことを契機に、全国でこうした戦争遺産の保存、公開の機運が高まってきました。更に1995年には、文化庁が文化財指定の対象を戦争遺産にも拡大しています。こうした背景の中で、焼失した首里城再建のために県内外から多くの寄付金が集まったことを契機に、県内の市民団体等から首里城の再建にあわせて、第32軍司令部壕の整備保存・公開を求める声が挙がりました。要請を受けた沖縄県では、2024年度中に基本計画を策定する予定で、早ければ2026年度に現在確認されている第5坑口と埋没している第1坑口を最初に整備・公開することを目指しています。

1950年、沖縄戦で米軍の攻撃を受けて焦土と化した首里城の跡地に琉球大学が開学しました。開学に際して、米軍は当時の首里キャンパスに一つの石碑を建立しています。「SHURI CASTLE」と名付けられたその碑には、「沖縄戦で跡形もなく破壊された首里城は、1166年から1879年の間、琉球王国の居城であった。琉球王国がその黄金時代を誇った1477年から1526年にかけて壮麗な建造物が築造された。現在は琉球大学の本館がその首里城跡に建っている」と記されています。首里の丘に開学した琉球大学と首里城、第32軍司令部壕は互いに深い関わりがあります。（「SHURI CASTLE」の碑は、首里キャンパスの移転に伴い、西原町の千原キャンパスに移設されています。）

首里城跡などを含む9遺産は、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」としてユネスコ世界遺産に登録されました。今回の火災で首里城正殿は焼失しましたが、世界遺産の対象は首里城正殿の遺構（基礎の石組み）であり、焼失した建物自体は対象ではないの

です。したがって、正殿が焼失しても世界遺産が失われたことにはなりません。首里城跡の下にある「第32軍司令部壕跡」が負の戦争遺産としての価値を評価され、世界遺産に登録されるようなことになれば、首里地区には二つの世界遺産が存立することになります。

かつて沖縄は、琉球王国という南海に浮かぶ蓬莱島、すなわち楽園（パラダイス）と言われてきました。しかし、沖縄戦によりその楽園は失われました。失われた楽園の象徴としての首里城は今、再建に向けて進み出しています。平和の象徴である「首里城の再建」と、負の遺産ともいえる「第32軍司令部壕」の整備保存・公開により、沖縄戦の実相を学び、戦争の教訓を継承することで、首里を世界に向けた「平和の発信地」とすべく、今、この二つの大きなプロジェクトが進んでいます。

（会報編集委員会 幸家秀男）

※掲載した写真や図面は、「第32軍司令部壕の保存・公開を求める会」（瀬名波栄喜会長）から提供いただき、同会のパンフレットから文章も一部引用しています。



現在の第5坑口
(首里金城町)



米軍の「SHURI CASTLE」の碑(千原キャンパス)

上原正功氏の生き方から学ぶ沖縄

(1979年 理工学部 化学科 27期卒)

筆者は2022年3月、7年間勤めた沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻教授を定年退職しました。

就任当時、筆者の就任をただただ微笑む上原正功氏がいました。その微笑みの意を知ることができたのは、娘の高嶺(樋口)美和子が琉球大学を経て、県立芸大後期博士課程で芸術学博士の学位を取得(21年)したことを記念し開催した公演(22年7月)を鑑賞され、そのご感想をお寄せ下さった時でした。

そのことを契機に、正功氏が琉大、県立芸術大学の2大学構想へ尽力されたことや、琉大郷土芸能クラブの創設(当時は琉球古典音楽研究クラブ)、同窓会名簿(『学友』1～21期まで)の作成をした苦労話を電話で、時代背景とともに年代も鮮明にダムの水があふれるがごとく語り始めました。筆者の人生と重ね合わせながら正功氏の功績を記録し、その生き方から何を学び、次の世代に何を渡せるのか、また、世界に沖縄をどうアピールできるのかを考えたいと思います。

1・上原正功氏の人物像とこころの原郷

正功氏は1934年3月、父正二(農業)・母モウシの長男として八重山石垣市で生まれ、戦災で姉弟3名は亡くなり弟と戦後生まれの妹がいます。琉大農家政工学部畜産学科7期卒(1959年)で現在那覇市首里在住。卒業と同時に琉大の事務職員として勤務し、2歳年下の初子(中学校教諭)と結婚。新婚当初から弟(八重山高校卒)と戦後生まれの妹(中3)を八重山の親元から引き取り同居。生活・養育費工面のため、米国留学を諦め、弟妹を琉大に進学させ教諭に育て上げ、2人の娘も琉大を卒業し音楽家、裁判所職員となり、両親も晩年は引き取りお世話をされたとのこと。

2・幼少期と島での教育

琉球王国時代、氏族となった曾祖父がいました。終戦の時、正功氏は5年生(10歳)、「貧農家」で、生活は苦しく土、日は畑の手伝いが必須で、長男故農家を継ぐ者として鍛えられていました。当時、八重山では農業が主な生き方であり、特に子供が三線を弾くことは遊び人と見られ、一人前になった後弾くものと言われていました。ガキ大将だった正功氏は、御獄やクラブ(共同体の集会所)にもよく通い、見聞きした祭りの真似をしたり、八重山の歌三線に興味を持ち、父親が不在

の時、内緒で三線を借りて耳で聴いた音を頼りに弾いていたようです。

当時、島での教育は6・3・3制の施行前で、6年生後は旧制中学生となるため6年生の時に受験がありますが、正功氏は父親の許可が得られず農林高校へ進学しています。ある時、普久村エミ(宮良長包の長女)音楽教諭から「正功さん、八重山の歌は質の高い曲想と歌詞が多く、人々の喜怒哀楽を少ない言葉で的確に表現している。歌詞の勉強もすると、歴史ともつながり深い理解となる。そのような研究者が生まれても良いと思っている」という言葉に、元々文学や小説に興味があった正功氏は背中を押されました。そこで、琉米文化会館に行き、雑誌『リーダーズ・ダイジェスト』を読み、知識を得ていたと言います。

3・琉球大学への道と「琉球大学郷土芸能クラブ」の前身にあたるクラブの創設

農林高校3年生の時、担任の半嶺当吉先生から「農業について、もう少し勉強したいと思わないか?」と聞かれ、正功氏は「実は逃げてでも沖縄(本島)に行こうと思っている」と答え、すると担任は「ならば口実をつくり、共に父親を説得しよう」と言って、卒業2カ月前に来宅し父親に沖縄中央農事試験場への派遣依頼をします。最初は父親に拒まれますが、「1年だけの期間ならば」と納得してもらいました。

53年3月、農林高校を卒業し石垣島を出ます。沖縄に着くと、学費を稼ぐために半年間は工事現場で働きました。生活は厳しく、生まれ島へ思いをはせていたある日、近所の琉球舞踊道場から流れる美しい琉球古典音楽を初めて聴いて、その音色に震え、いつか習いたい、このまま島へ帰ると一生後悔すると思ひ鼓舞されたと言います。正功氏は獣医師になりたいと53年9月、家畜衛生研究所職員公募に応募し非常勤として採用。54年には第2回琉球政府公務員試験にも合格し4月から本採用。いずれも難関を突破しての採用でしたが学問をしたく、55年琉大に受験し合格。公務員を退職し4月から大学生となっています。

1年次は琉大文学クラブに入学し読書がかなう夜警のアルバイトをしています。当時、ダンスクラブがあった故、琉球古典音楽の話をする、周りからは「毛遊び」を大学に持ち込むバカがいるか!言われます。が、正功氏は男子寮の文化

のチムグクル(心)

部長をしていたので、学寮祭で八重山の子守唄を自身の歌三線で後輩らに踊らせ披露しています。すると再び周囲からはアシバーター(遊び人たち)とバカにされます。しかし、琉球の古典音楽を学びたい一心で、56年、琉球古典音楽研究クラブの創設を学生総会に申請をします。が、中央委員会で否定(三線や踊りを大学でやるのかと言われ)されます。それでも諦めず、理解のある渡久地政一先生、中今信先生に相談し同好会として活動を続けていました。57年5月、琉球古典音楽研究クラブは認可され、県内の新聞で正功部長が舞台上で三線を弾く写真と、「琉球大学の学生が郷土の文化と正面から向き合って研究クラブを創っている」と活動が紹介されます。しかし、記事を見た父親が沖縄(本島)に飛んできて激怒され、正功氏は父親の目の黒いうちは三線を弾かないと決意し、後輩らに託し部活動を辞めます。が、舞台鑑賞は続けたようです。

4・琉球大学の事務職員となり実務経験と情熱が沖縄県立芸術大学の創設を可能に

正功氏は卒業と同時に琉大学生部の事務官となります。事務職成績が認められ38歳(1972年)の若さで学生部厚生課長、その3年後に学生課長、そして企画調査室長に抜擢されます。その間、日本復帰を迎えた年に琉大は国立大学へ移管し、学則の改正や設置基準に準じるための学部・学科の改編・統合・新設、大学院や医学部を設置していきます。さらに首里城復元のため、琉大は千原キャンパスへ移転することになり、正功氏はそれらの企画から移転、整備の難関な業務を担当していきます。これらの正功氏の業績は当時の西銘順治知事の信頼を得、知事の政策実現のために県への任官を要望されることとなります。

以前よりあった沖縄文化の特性について、将来につなぐために研究機関をつくらうという話は、西銘知事が誕生(1978年)し、第2次沖縄振興開発計画12項目の中、唯一ソフト面の「沖縄県立芸術大学の設置構想」とあり、西銘知事は79年、県と県工業連合会との懇談会で公表しています。当時48歳だった正功氏は、設置準備室に知事より命を受け82年12月、国の事務官から県へ異動しています。

それから紆余曲折の末、美術工芸学部と付属研究所の組織で86年4月、沖縄県立芸術大学の開学となります。ただ、



学寮祭で八重山子守唄(アガローザ)を披露後の記念撮影
中央が上原正功氏



上原正功氏(90歳)

琉球芸能を含む音楽学部の創設はハードルが高く、85年には認可が下りず、正功氏の模索は続きます。「僕は音楽学部に命をかけていた」と淡々と苦労話は続きました。前例のない琉球芸能を研究する学部を、西洋音楽研究を中心とした音楽学部には包括するために、音楽学部の創設方法を研究し、教育カリキュラムや組織の整備・人材確保に奔走します。同時に琉球芸能の研究内容も整えながら、文部省(現文部科学省)に不可能と言われた事項等も順次解決し詳細な資料を同省に提出し、晴れて89年に音楽学部が認可され、翌90年音楽学部音楽科邦楽専攻としてスタートします。邦楽専攻は14年後の2004年に琉球芸能専攻と改称されています。

定年退職後は、5カ年間大学参与として大学院修士課程及び後期博士課程の設置を実現させて退職しています。

今回、沖縄の歴史的な難題とも対面しながら情熱と信念を持ち努力をする「徳」の持ち主、上原正功氏の生き方を学ぶことができました。琉大を経て、県立芸大をデザインし、沖縄でも高等教育のできる場を、沖縄独自の歴史や文化を学べる場を構築した正功氏は、沖縄県の教育・文化に多大な功績を残されました。

上原正功氏が果たした沖縄のウムイ(思い・心)をつなぐバトンを渡す場の構築は、歴史的な偉業と成りましょう。

ノーベル賞受賞者が残したモノ

琉球大学には2人のノーベル賞受賞者が残したお宝があります。湯川秀樹博士(1949年物理学賞)と天野浩博士(2014年物理学賞)で、お宝はいずれも学生のために揮毫(きごう)した記念の書です。二つは学生の指標となる貴重なものです。

湯川秀樹博士「学而不厭」

京都大学在任中の博士は、講演会で1963年1月に首里キャンパスを訪れました。日本人初のノーベル賞受賞者として、会場の大学体育館は3,500人余の聴衆(県内紙報道)でいっぱいになりました。当時学生だった当真邦子編集顧問(12期体育科)は「体育館は人であふれ2階の片隅で講演を聞いた」と状況を語っています。

博士が来学した際に揮毫したのが「学而不厭(がくじ) 不厭(ふえん)」(学びて厭(いと)わず)という論語に出てくる孔子の言葉です。西田睦学長は令和2年の卒業式でこの学而不厭を取り上げて「学び、そして学ぶ。けっしてあきらむことはないという意味で、学び続けて大いに活躍してほしい」と卒業生にエールを送りました。

博士の直筆書は琉球大学図書館に保管されていますが、一般公開されてなく実際の写真は紹介できませんが、大学では、同書を1.3倍に拡大して輝石安山岩に彫刻して図書館入り口に掲げています。



「学而不厭」を揮毫する湯川博士(写真提供: 琉球大学図書館)



大学図書館入り口に掲示

天野浩博士「人々のために」

名古屋大学在任中の博士は、湯川博士来学から半世紀後の2015年2月、ノーベル賞受賞の2カ月後に講演で千原キャンパスを訪れました。その際に揮毫したのが「人々のために」。歓迎式で大城肇学長(当時)は「研究の目的は人の役に立つことである」という博士の言葉を取り上げてあいさつしています。

博士の揮毫について、比嘉正幸編集副委員長(当時農学部事務長、27期)は「目の前で揮毫するところを見た。良く覚えている」と語ったほか、仲座栄三琉球大学産学官連携推進機構長(当時)は、「人々のための研究、電球をもたない子供たちに光を届けたい」という天野浩博士の思いがこの書に込められていますと説明文を書いています。

博士の直筆書も公開されてなく確認はできませんでしたが、大学では、同書を木に彫刻して工学部地域創生総合研究棟1階ミーティング室に掲示しています。

注釈: 「学而不厭」と「人々のために」のお宝があります。前者は学問(研究)の楽しさを後者は学問(研究)の目的を教えています。二つの揮毫書とその教えを語り継ぎ、未永く残したいものです。



天野博士の揮毫を彫刻して掲示



「人々のために」を揮毫する天野博士(琉球大学産学官連携推進機構のNewsletter2015創刊号から掲載)

同窓会では、2023年10月3日、琉球大学50周年記念館に沖縄ハワイ協会大城浩会長をお招きして、ハワイマウイ島火災復興への支援金を贈呈しました。幸喜会長は「戦後の荒廃した沖縄を支援するため、ハワイに移住した沖縄県人の方々がお金を出し合って500頭余りの豚を送って助けてくれました。同窓会としましてもそのご恩に少しでも報いたい」とあいさつしました。沖縄ハワイ協会の大城会長は「今回の支援金はハワイ沖縄連合会に送金して、マウイの復興に役立てたい。同窓会の皆様に深くお礼を申し上げます」と話しました。



18

18歳で児童養護施設などから自立する若者を支援する琉球放送のキャンペーンに賛同し、同窓会では2023年10月31日に琉球放送を訪れて同社の中村社長に支援金を贈呈しました。支援は2021年以降3回目。贈呈の様子は琉球放送のテレビやラジオで放送され、幸喜会長はインタビューで「彼らは全部自分で賄わないといけないんだと感じ、私たちに何かできることはないかなと思ったのが支援のきっかけ。社会で活躍できるような人材になってもらいたい」と自立する若者にエールを送りました。



※ 同窓会では、今後も「琉大のお宝」というテーマで掲載を企画しており、思い出に残るお宝について、同窓生皆さまからの投稿や取材依頼を募集しています。

学部・学科同窓生動向

化学同窓会・懇親会

幹事:化学同窓会 38 期代表 山里 崇氏

2023年11月4日(土)沖縄県青年会館において4年ぶりに化学同窓会・懇親会を復活することができました。参加者はなんと60名でした。2019年12月から続くコロナ禍、幸い23年に入り収束の兆しがみえ、実行委員の中からも「同窓会に今後入会する琉球大学理学部海洋自然科学科化学系卒業生の交流の場として懇親会を続けたいよね」との声があがり、4年ぶりの対面式懇親会開催を決断。11月に無事同窓会総会、懇親会を終えました。私たち38期は30名あまりいますが、計19名が参加し、その後の二次会も盛り上がり卒業から33年間の思い出に浸りました。

青年会館で予定されています。幹事学年は39期の皆さんです。また来年、会員の皆さんと楽しいひと時を共にできることを楽しみにしています。



今回は、2024年11月2日(土)沖縄県

同期会

小学校教員養成課程国語専修
中学校国語科専攻

報告:31期 上原いづみ氏

2023年12月2日～3日、読谷村瀬名波の民宿「まーみな」で大学卒業以来、初めての学科同期会(31期)を開催しました。参加者は14人で、実に40年ぶりの再会でした。

開催のきっかけは、同期の1人が亡くなったことでした。悲しみに包まれる中、「近いうちにみんな集まろう」となり、同期会が計画されました。当初は昨年8月に大学恩師の曾澤卓司さん、芽美さん夫妻が経営している民宿で開催予定でした。しかし、実施直前に沖縄で台風6号が猛威を振るい、本土からの参加者もいたため、いったん中止となり、全員がっかりしました。後日、先生には80歳の傘寿祝いとしてオクマビーチリゾート宿泊券をプレゼントしました。

その後、再び開催の機運が高まり、12月の開催にこぎつけました。場所も曾澤先生の民宿で、その扉を開けた途端参加

者たちは40年の時の流れをすっかり忘れ、学生時代にタイムスリップ!!(全員還暦を超えているので、外見に多少の変化はありましたが)。当然ながら大いに盛り上がり、1年後(24年12月)の開催を約束しました。年末の慌ただしい中、本土組も含め心に温かいおみやげを抱き、帰途に就きました。



書道クラブOB 書道展

龍樋書道展 (2023年9月1日～3日、県立博物館・美術館県民ギャラリー)

「龍樋書道展」は、首里キャンパス時代の琉球大学書道部の部員とそのOBによって昭和42(1967)年に誕生し、以降、毎年書道展を開催して今回で56回目を迎えました。

会員は卒業後、多忙な仕事に追われながらも日展をはじめ県内外の書展で活躍し、または趣味として続けており、年に一度の展示会出品と仲間と集うことを励みとしています。

流派にこだわらない多種多様な作品と同窓生の情熱があふれる展示会でした。

(書道展の経緯と活動状況は展示会パンフレットから引用)



福原光華(美枝)書



琉球大学書道クラブOBの皆様

私たち琉球大学ソフトボール部（琉大ライナース）は、全日本選手権（インカレ）出場を目標に、日々練習に励んでいます。2020年にコロナの影響により活動ができず、廃部となってしまった当部でしたが、21年に再び一からスタートしました。再結成する当時は、部員集めにとても苦労しましたが、今では30人を超え、九州地区の大学ソフトボールチームの中では、一番多い部員数を誇るまでにになりました。

昨年3月に開催された全国国公立大学大会では、創部3年目にして4位という結果を収めることができ、私たちにとって大きな成果となりました。部員一丸となって、来年度の大会ではもちろん優勝を目指して、練習に励んでいます。

私たちが活動していく中で、直面している大きな問題があります。それは練習場所の確保が厳しいということです。本学のグラウンドにはナイター設備がなく、冬場は授業終了後の午後5時ごろには暗くなっており、部員全員が集まって練習することができません。長期的に利

用できるグラウンドを探し、さまざまな団体へ借用の要請をしていますが、いまだに見つけれない状況です。

今は、毎回違う場所を点々とし、大学近辺でグラウンドを借りて練習しています。部費を徴収していますが、部員たちへの負担がとて大きくなっています。

私たちは練習場所や道具を支援して下さる企業や個人を探しています。私たちは全日本選手権（インカレ）出場という夢のために努力します。どうか皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



琉大ハニー養蜂部（琉大ハニー）は、毎週火曜日午後2時半から2時間ほど活動しています。

沖縄県では年間を通して温暖な気候ゆえに養蜂産業は日本一と言われているのですが、県産の蜂蜜はあまり知られていません。当部は県産の蜂蜜ブランドを確立し、発信することで大学生として地域に貢献していくことを目的に発足しました。

現在、琉大生と沖国大生合わせて15人程度で活動しており、絶賛部員募集中です。

また、2023年11月には、活動資金の収集と沖縄県の養蜂家さんなどとのつながりを目的にクラウドファンディングをしました。多くの支援者様のご協力により目標の40万円を上回り41万円達成することができました。さらに、琉大ハニーのLINEオープンチャットを開き支援者さんと交流も行うことができました。中には養蜂をサポートし、地域のイベントに呼んでいただいた養蜂家さんや、東京から沖縄まで会いに来てくださった支援者さんもいらっしゃいました。現在はクラウドファンディングの返礼品の準備や巣箱の内見などを主に行っています。今後は、クラウドファンディングで支援していただいた資金を基にミツバチの数を増やし蜂蜜を販売できるレベルま

で規模を拡大していくために、養蜂箱（巣箱）の製作やミツバチの分蜂を助ける作業を予定しています。養蜂や蜂蜜、ミツバチに興味のある方はぜひ見学に来てみてください。オープンチャット（名称：琉大ハニー養蜂部）も逐一情報を更新しているのでぜひのぞいてみてください。応援よろしくお願いいたします。



ミツバチから学ぶ社会性

『琉大ハニー』は、令和元年度に琉球大学ブランド商品開発支援事業に採択され、公式の琉大ブランド商品として認定を受けました。農学部で採蜜している蜂蜜は、生産量が限られており、蜂蜜自体での商品化が難しかったことから、沖縄県内企業OKINAWA CACAO（株式会社ローカルランドスケープ）の川合径氏と共同開発した商品が『琉大ハニーグラノーラ』です（OKINAWA CACAOで購入可能；<https://okinawacacao.com>）。それから5年、継続的な販売はできていますが、原料の琉大ハニーの増産ができていません。この状況を打開するために、本年度取り組んだ新たな挑戦について、本稿では紹介したいと思います。

筆者の所属する植物病理学研究室（代表：田場聡教授）では、マンゴーのポストハーベスト病害の研究において、果実を得るためのポリネーションを目的に養蜂をスタートさせました。また、低環境負荷型の農業病害虫防除技術開発研究の中で、研究対象の一つであるアワユキセンダングサが、養蜂の優秀な蜜源であり、研究材料を栽培する圃場の副産物として蜂蜜を得られるという好条件が揃いました。加えて、養蜂やマンゴーなど熱帯作物の栽培に興味を持つ有志学生が集まる課外活動を、年間を通して実施しており、地元の養蜂家や農業生産者との交流や、地元企業との商品開発は、地域農業振興に貢献する人材育成の機会として、高い教育効果をもたらしています。しかし、沖縄県は温暖な気候から養蜂に適した環境ですが、順調に蜂群数が増えてきたと思えば、台風の襲来やアリの攻撃、未熟な養蜂作業（移設など）に

よって、巣箱のミツバチが全滅してしまうことなどの紆余曲折がありました。養蜂について習熟してきた学生が卒業してしまうことなども、持続的な養蜂活動の課題でした。

本年度も、養蜂を学びたいという学生が現れましたが、ミツバチを飼育した経験を自己完結するのではなく、組織的に複数年次の学生が広く養蜂を学ぶ活動にしていく必要性を感じ、養蜂に取り組むサークル活動とすることに着想しました。さらに教育的な観点から大学生養蜂部の発足に向けた活動資金調達のためにクラウドファンディングへ挑戦しました（<https://rescuex.jp/project/110556>）。65人におよぶたくさんの方にご支援いただき、目標を達成でき、部活動の強力なサポーターとの人脈を作ることができました。新たに入部希望者が集まり、2023年11月8日（良い蜂の日）にサークル活動の申請書を提出し、無事に受理され、琉大ハニー養蜂部を発足できました。この場を借りてご支援いただいた全ての方へ謝意を伝えるとともに、今後の活動の展開にご期待いただきたく思います。





49

2024年2月17日(土)、「大学寮歌・歌祭り」(主催・沖縄寮歌振興会)が那覇市ぶんかテンプス館で開かれ、琉球大学同窓会も参加しました。19年以来4年ぶりの開催となり、24大学の同窓生ら約200人が出席、熱気あふれる歌祭りとなりました。

比嘉正幸振興会副会長(琉大同窓会評議員)の開会宣言で幕開けし、比嘉朝文会長(明治大学)が主催者あいさつ。「コロナ禍の中で会長職の指名を受けたが、ここまで皆さまが主催者の気持ちで取り組んでこられたため、役員一同頑張ることができました。大学はそれぞれ違いますが、郷土沖縄の発展を願う気持ちは一緒です。これからも力を合わせていきましょう」と述べました。引き続き知念覚那覇市長からの祝電が披露され、桑原理哲神戸学院大学同窓会長が乾杯の音頭をとりました。

参加者全員で「人を恋うる歌」を斉唱し、会場が一体となったあと、メインイベントの大学別歌合戦が繰り広げられました。法被姿のほか、制服・制帽で登場する大学もあり、それぞれが母校の寮歌、大学歌を熱唱しました。琉大は19番目に登場、15人が法被姿に小旗を持ち、幸喜徳子会長の口上後に「琉大追遥歌」「琉球大学の歌 雲よ湧け、千原の空」を高らかに歌い、他の大学から喝さいを受けました。他大学に負けじと歌う姿は青春そのものであり、母校に感謝するとともに人の絆を紡ぐ楽しいひとときとなりました。

また、会場では今年1月1日に発生した能登半島地震に対する災害救援金の募金があり、当日の参加者からの義援金10万円を金沢大学同窓生に寄託しました。

大切な人への贈り物に。



美味しいよ♡♡



株式会社ジミー

〒901-2223
宜野湾市大山7-2-20
フリーダイヤル
☎0120-012-575
<http://www.jimmys.co.jp>



「飛び安里讃歌」 夢は大空 飛び安里 二〇二三年 作

夢を抱いて果てしなく飛べ 飛べ 安里 大空に
飛び立つ鳥を 仰ぎ見る 高津山に朝日さす

我らが村の飛び安理想求めて 限りなく

くじけぬ胸に秘め つばさ広げて鳥のよう

金の森に咲く文化 未来を拓く飛び安里

夢は大きく大空にロマンの翳叶う

鳥人安里を残永遠に輝勇意気

沖繩の星つまで世界に誇る

飛び安里

いつまでも世界に誇飛び安里

(数学科 松期 竹雄)

※飛び安里は、二五〇年ほど前の琉球王朝時代に独自の技術で空を飛んだといわれる。飛び安里研究会(島袋恒政会長は偉業の継承と啓蒙運動として 二〇二三年に第一回飛び安里まつりを開催した



小中校生、大学生による「飛び安里讃歌～夢は大空飛び安里」の踊り(2023年8月12日南風原町中央公民館黄金ホール、琉球新報社提供)

同窓会創立 70 周年記念事業紹介 (2024 年 1 月末現在)



第 1 回募金推進委員会 (2023 年 4 月 25 日)

募金活動 目的 学生及び母校支援の資金造成、創立 70 周年記念事業経費を補うため
 開始 個人向け～2023 年 3 月から、企業向け～2023 年 11 月末から
 備考 企業向けは募金推進委員会(県内経済界で活躍する方々で構成)を発足して
 推進中

琉球大学同窓会募金推進委員会

※敬称省略、委員氏名は五十音順に掲載

[募金推進委員]

特別顧問	(株)りゅうせき 参与(元沖縄県知事)	稲嶺 恵一
委員長	(株)沖縄銀行 代表取締役会長兼頭取	山城 正保
副委員長	コザ信用金庫 会長	金城 馨
委員	街クリーン(株) 代表取締役社長	赤嶺 太介
委員	那覇空港ビルディング(株) 代表取締役社長	安里 昌利
委員	琉球朝日放送(株) 代表取締役社長	上原 直樹
委員	大同火災海上保険(株) 相談役	上間 優
委員	(株)琉球銀行 代表取締役会長	川上 康
委員	拓南製鐵(株) 代表取締役会長	古波津 昇
委員	(株)沖縄海邦銀行 代表取締役専務	崎原 正樹
委員	(株)沖縄タイムス社 代表取締役社長	武富 和彦
委員	琉球放送(株) 代表取締役社長	中村 一彦
委員	琉球大学 学長	西田 睦
委員	名桜大学 元理事長	比嘉 良雄
委員	(株)琉球新報社 代表取締役社長	普久原 均
委員	沖縄テレビ(株) 代表取締役社長	船越 龍二
委員	沖縄県農業協同組合 (JAおきなわ) 理事長	前田 典男

[琉球大学同窓会] 会長 幸喜 徳子 (沖縄石油ガス(株)代表取締役会長)

[募金推進委員会事務局]

担当責任者 同窓会副会長 大城 純市 (大城純市弁護士事務所)
 事務局 同窓会事務局長 喜屋武 正志

チャリティーゴルフ大会

日時 2024 年 4 月 9 日 (火) 午前の部 7:00 ~ 午後の部 12:00 ~
 場所 琉球ゴルフ倶楽部
 ※ 本誌裏面に大会案内掲載

芸術祭

日時 2025 年 2 月 11 日 (火・祝日) 16:00 ~
 場所 浦添てだこホール
 内容 西洋音楽と琉球芸能の 2 部構成
 演目 学生と OB によるオーケストラ演奏、合唱、組踊、舞踊等
 ※ 実行委員会 委員長: 前川朝文、副委員長: 菅間玉美、渡久地美代子

記念式典・祝賀会 2025 年 2 月開催予定

大学支援 2024 年 7 月 13 日 (土) 定期総会において大学に寄付金を贈呈予定

記念誌発行 2026 年 7 月ごろ同窓会創立 70 周年記念誌発行予定

創立 70 周年記念事業への皆さまのご支援、ご協力をお願いいたします。

2024 年度「定期総会」のご案内

期日	2024 年 7 月 13 日 (土)	支部長会	12:00 ~ 13:30
場所	パシフィックホテル沖縄	定期総会	14:00 ~ 15:00
		講演会	15:20 ~ 17:20
		懇親会	17:30 ~ 19:00

講演会

講師 3 名 (予定)

- ① (株)ぬちまーす 代表 高安正勝氏 (物理学科 1972 年卒)
 1997 年にベンチャー企業を設立。独自製法「常温瞬間空中結晶製塩法」により
 ミネラル豊富な塩を精製 (世界一ギネス認定) して注目を浴びる。
- ② (株)那覇空港ビルディング 社長 安里昌利氏 (経済学科 1972 年卒)
 沖縄銀行頭取や県経営者協会会長を歴任、経済に関して豊富な知識と経験を有する。
- ③ ジャパンハートこども医療センター小児科部長 嘉数真理子氏 (医学科 2004 年卒)
 ボランティア医師としてカンボジアで活動、2021 年ロッキーチャレンジ賞受賞

テーマ 未来の産業、経済、社会等のテーマで講演予定

2023 年度同窓会三役・名誉顧問・事務局長紹介



会長

1966 年教育学部体育科卒 14 期
沖縄石油ガス(株)代表取締役会長



副会長

1987 年農学部農芸化学科卒 35 期
オキコ(株)取締役生産本部長



副会長

1964 年教育学部体育科卒 12 期
元中学校教諭



副会長

1969 年教育学部体育科卒 17 期
元沖縄市教育長



副会長

1976 年法文学部法政学科卒 24 期
大城純市法律事務所 弁護士



副会長

1989 年医学部医学科卒 37 期
浦添総合病院副院長



事務局長

1978 年理工学部生物学科卒 26 期
元沖縄県警察警視

会報第 46 号編集委員



(前列左から)

喜屋武 正志 事務局長

当真 邦子 顧問

上原 修 編集委員長

比嘉 正幸 副委員長

高嶺 久枝 書記

(後列左から)

幸家 秀男

マロクインオーティス友美

前泊 美紀

平井りい子

会報第 46 号編集委員

編集委員長/上原 修

編集副委員長/比嘉 正幸

編集委員顧問/当真 邦子

編集委員/平井りい子

前泊 美紀

幸家 秀男

マロクインオーティス友美

琉球大学同窓会会報第 46 号

編集発行 琉球大学同窓会

〒903-0213 沖縄県西原町字千原 1 番地

Tel:098-895-8039 Fax:098-895-8163

E-mail: dousou06@jim.u-ryukyu.ac.jp

HP: https://dousoukai.skr.u-ryukyu.ac.jp/

印刷 新星出版株式会社

2023 年度同窓会役員

役職	氏名	卒業(期・年・学科)			役職	氏名	卒業(期・年・学科)		
会長 副会長 副会長 副会長	幸喜 徳子	14	1966	体育	副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長	田本 由美子	24	1976	社会
	渡久山 秀治	35	1987	農芸化学		慶田 喜則	25	1977	数学
	当真 邦子	12	1964	体育		宮平 進	25	1977	法政
	仲松 鈴子	17	1969	体育		上原 徹	25	1977	社会
	大城 純市	24	1976	法政		米盛 智恵子	26	1978	養護課程
	藏下 要	37	1989	医学		親川 勝	27	1979	法政
	岸本 正之	5	1957	英文		比嘉 正幸	27	1979	短大部法経
	市村 嘉久	2	1954	政治		幸家 秀男	28	1980	法政
	比嘉 正幸	5	1957	政治学及び法学		大城 正人	28	1980	法政
	赤嶺 健治	8	1960	英文		当銘 恵友	28	1980	経済
監査員	波平 正	23	1975	商学	蔵根 美智子	28	1980	教員養成	
	小橋川 正光	23	1975	商学	嘉手苺 弘美	28	1980	教員養成	
副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長 副会長	津留 健二	4	1956	政治学及び法学	平井 りい子	30	1982	文学	
	上原 政英	8	1960	畜産	根路 銘三恵	31	1982	保健	
	宮城 吉通	13	1965	畜産	上原 修	31	1983	社会	
	新城 勇	17	1969	機械	田崎 明美	31	1983	教員養成	
	照屋 寛八	17	1969	音楽	大湾 知子	32	1984	保健	
	奥 キヌ子	18	1970	家政	佐喜真 裕	36	1988	法政	
	石川 清勇	20	1972	商学	マロクインオーティス友美	44	1996	英文	
	島袋 君子	20	1972	体育	前泊 美紀	44	1996	法政	
	上原 正信	21	1973	農学	友利 直子	45	1997	経済	
	安里 直子	21	1973	初等教育	狩 俣 みつ穂	46	1998	人文	
副会長	山入 端恵子	21	1973	体育	池間 智政	50	2002	農学	
	照木 勝明	23	1975	短大部法経	新田 繁睦	55	2007	教員養成	
	宮城 重哲	24	1976	法政	玉寄 由利亜	学生		教員養成	
	山田 稔	24	1976	養護課程	事務局長 喜屋武 正志	26	1978	生物	

※ 名誉顧問 岸本正之氏は2023年3月21日に逝去されました。

退職される恩師紹介

(2024 年 3 月 31 日付)

敬称省略、五十音順に掲載

No.	氏名	職種	部局名
1	浅井 玲子	教授	教育学部
2	李 好根	教授	国際地域創造学部
3	石内 勝吾	教授	大学院医学研究科
4	石原 昌英	教授	国際地域創造学部
5	大角 玉樹	教授	国際地域創造学部
6	金城 寛	教授	工学部
7	倉田 耕治	教授	工学部
8	近藤 毅	教授	大学院医学研究科
9	齋藤 誠一	教授	大学院医学研究科
10	佐々木香代子	准教授	グローバル教育支援機構国際教育センター

※掲載はご了承をいただいた先生方です。

No.	氏名	職種	部局名
11	下地 敏洋	教授	大学院教育学研究科
12	高倉 実	教授	医学部
13	丹野 清彦	教授	大学院教育学研究科
14	仲座 栄三	教授	工学部
15	野底 武浩	教授	工学部
16	橋本 俊作	教授	国際地域創造学部
17	比嘉 真理子	准教授	大学院医学研究科
18	廣瀬 康行	教授	病院
19	FRANKE CLAUDI FRIEDRICH	特任講師	グローバル教育支援機構国際教育センター

期間:2023年1月~2024年1月まで
 寄付総額 7,231,800 円

[個人] 327名 寄付合計 4,901,800 円

仲地和歌子	幸地 隆明	照屋 忠敬	佐久川千代子	喜屋武盛賢	下地 政昭
濱元 盛正	喜屋 武修	小川 太郎	眞喜志康明	垣花 将司	當間 清喜
大村 英子	山田 幸子	山入端 勇	與那嶺盛仁	友寄 隆房	得丸 寿昭
金城 榮	長嶺 由武	屋良 一	宮里 和宏	親泊美智子	喜屋武悦子
ヤカヒカス	普天間優子	赤嶺 正廣	伊藤 タケ	西原 忍	譜久島哲三
森田 恒樹	川満 正彦	大城 清昭	安里 昌利	仲吉 良包	稲福美智子
楠和 起	大城 保忠	國仲 昌夫	謝敷美代子	山城 毅	運天美津子
田名 毅	岸本 咲子	玉城 健三	大城 光雄	嘉陽田広子	下地 康嗣
カイヤカ	知花 昌和	比嘉 正子	佐久川政喜	神里みどり	宮本 春義
宮平 栄治	仲里 善徳	マツダ シゲヤ	豊田 安弘	阿波根一子	喜屋武正志
稲嶺 宏武	松田 有朝	平良 雅則	井上 洋子	荒木 秀夫	平良 市郎
大湾 宏	米須 弘	古堅 芳子	久高 将輝	新垣 正徳	小橋川清弘
新崎 初子	真栄城 勉	浦添喜美子	国吉 和雄	神山 定久	田中 豊三
皆木 知子	田中 隆文	上間 悦子	島袋 盛康	花城 安廣	與古田撮喜
砂川 昌範	カヤイ	上間 保男	伊良波政彦	島袋 智子	シダ ヒデキ
長嶺 泰彦	桃原 次男	石嶺 傳實	玉城 偉美	玉城 敏夫	具志堅俊一
當真 良明	当山 尚幸	山城 勝徳	与儀 勝彦	新城 次美	中崎 桂一
當間 義孝	多和田真吉	泉 祐正	吉村 英俊	根川 富子	安里 禮子
新垣 隆子	仲田 洋一	町田 聰	國吉 眞治	城間 勇雄	城間 貞
喜友名朝昭	シラヒ ヒロキ	匿名希望ウ	野原 政俊	玉寄 兼	與那嶺正治
根間 進	クニシ シンヨウ	ンシ マツグ	野原 博子	當山 孝保	津波 徳治
宜野座嗣郎	シダ クレイ	クニシ フヤ	江洲 順吉	玉城 昭子	金城 信子
横田 清	新城 武	狩俣 昇男	照屋 勝男	山城 興治	又吉 慶次
西原 健盛	島袋 君子	下地 實夫	座間味宗一	松田 哲博	渡久山 章
上地 和夫	重田 辰弥	奥原トヨ子	赤城 幹弘	伊礼 清	當銘 恵子
宮城 哲	田原 香利	長谷川洋介	波照間永邦	瑞慶 山茂	湧川 清吉
嘉数 睦	上原 康	比嘉 盛榮	大村 英子	比嘉千都代	竹下 尚憲
里 寛治	島袋 徳秀	銘苅 康弘	宮城 修	吉元 信子	シマ トオ
知念 正直	當山 清勝	上江洲正宏	松本 淳	屋嘉比康勝	匿名希望守
平良 泰一	系数 栄輝	白井 康博	安里 久子	當間 春子	屋ハツエ平
棚原 正榮	平良 佳恒	比屋定捷子	板良敷紀子	ツダ サシ	良 正

大城 隆	宮城 一夫	具志堅弘子	クニシヨウキ	山城 保雄	渡久山秀治
銘苅 則夫	中元 敏郎	知念かねみ	ミレイミル	末吉 健男	芳原 宣男
古堅 幹也	佐喜真 實	宮良 信夫	伊藤 鈴子	山田 義文	仲宗根 宏
喜友名 寛	西浜 完治	喜納まち子	嘉良 寧	宮城 榮	名嘉 重則
是枝 快房	比嘉 禎久	上間 克子	向 美芳	山内 惇	神山 直子
安里 高志	狩俣 千恵	當山 則雄	山田 稔	田場 清志	玉城 敏子
大城 守	長嶺 和恵	仲里 利信	屋良 栄作	蔵盛 章	鉢嶺 清典
池原 東栄	比嘉 三男	眞島 長治	岡村 誠	新里 正次	阿波根あつ子
高宮城一男	稲福 盛市	神田 浩孝	高嶺 房枝	玉那 覇哲	宮崎 紀光
比嘉 律弘	金城 嘉昭	久高 将英	照屋 絹代	金城 明美	新垣 盛和
島袋 君子	垣花 勝行	川上 哲史	伊豆味正吉	富里 勝行	荒木 秀夫
仲松 鈴子	奥田 敏文	下地 恵正	前田 勇	重田 辰弥	新垣 司
当真 邦子	瑞慶覧長敏	玉村 靖	宮國 英男	佐藤 由美	泉 芳子
友寄弥栄子	天顔 友一	國吉 浩二	豊村 良春	中石 直木	松原 昇司
親川 政秀	豊島 麗子	我如古盛英	洲鎌理代子	喜友名朝昭	比嘉 美好
崎山 用順	砂川 義信	金城 孝仁	上里 澄夫	糸満 誠	高嶺 久枝
白木 惇	安里 祥徳	玉那 覇力	前泊 美紀	謝敷美代子	本村 隆信
東 完彰	美里 泰雄	渡久地美代子	前泊 甫美	津野紀代志	赤嶺 清仁
本村 浩司	津波 淳子	下地 正晃	平良 實	伊良部邦夫	上原 政英
澤岬 純子	小底 礼子	根間 俊明	船越 義永	比嘉千都代	大城 肇
仲本 道子	伊波 悟	森満 裕幸	瀬名波長宏	山口 幸子	伊藤 修二
大城 純市	上原恵美子	岸本 一夫	新垣 信雄	山里 恵子	
照屋 初子	大城早智子	親川 勝	奥村 啓子	新城 和範	
桑江 良光	新垣 幸子	金城 忠明	玉城 智彦	重田 辰弥	

[企業等] 33社 寄付合計 2,330,000 円

税理士法人リモト	街クリーン(株)	(株)ゆがふ、ホールディングス
(株)屋部土建	(株)IMI CORPORATION	(株)創和ビジネス・マシズ
セコム琉球(株)	(株)メイクマン	琉球セメント(株)
(株)沖縄タイムス社	(株)福地組	沖縄テレビ放送(株)
(株)沖縄ダイケン	沖縄ソーリスト(株)	沖縄ガス(株)
(株)フジタ沖縄支店	オキコ(株)	(株)琉球バス交通
昭和化学工業(株)	(株)すこやかホールディングス	(株)沖縄海邦銀行
パナニックコンシューママーケティング 沖縄(株)	(株)エヌテックシステムズ	(株)沖縄海邦銀行琉大 OB 有志一同
沖縄総合警備保障(株)	(株)沖縄環境保全研究所	オリオンビール(株)
沖水化成(株)	(株)シルク	(株)沖通商
(株)国建	(株)OCH	(株)琉球新報社

波平税理士事務所

税理士 波平 正
税理士 波平 剛一

〒901-2101 沖縄県浦添市西原 6 丁目 8 番 1 号
TEL 098-875-0852 FAX 098-875-0853
E-mail t-namihira@keh.biglobe.ne.jp

でんきもガスも!
Powered by 沖縄ガスニューパワー



沖縄ガス

☎(098)863-7730(代表) ありがとう 65th
☎(098)863-7750(ショールーム)
沖縄県那覇市西 3-13-2



琉球大学同窓会関東支部

支部長 高山 厚子
副支部長 中島 信一郎
事務局長 金城 利光

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-9-6
陽光銀座三原橋ビル 6 階(中島信一郎法律事務所内)
TEL: 03-6226-2200 FAX: 03-6226-2201

技術と創造で地域に奉仕する
沖縄電カグループ(百添会)

沖縄プラント工業(株)

代表取締役社長

〒901-2131 沖縄県浦添市牧港四丁目11番3号
TEL(098)876-2535(代) FAX(098)877-9993

JAおきなわ提携研修推進協議会



あぐい

JAおきなわ提携研修推進協議会
JAおきなわと消費者を信頼でつなぐ
沖縄県食肉センター
〒901-1203 沖縄県南城市大里字大城 1927
TEL:(098)945-3029 FAX:(098)945-3742
SQF 認証取得 認証番号 31733 第151・152・153・154号
第228・229・230・231号

Refriendsイメージキャラクター
ともーる

同窓会幹事代行

同窓会したいなあ...と思ったら

専用TEL **0120-953-070**

(受付時間 月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00)

メール **produce@salat.co.jp**

同窓会のトータルプロデュース企業 株式会社 サラト



本社 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172 TEL.079-284-1380
東京支社 〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7 シモジビル5F TEL.03-3832-6381
<https://www.refriends.net/>



Beyond the Bank

あなたの明日へ

OKINAWA KAIHO 海邦銀行

地元と ともに

コザ信用金庫

会長 金城 馨
理事長 喜友名 勇

<https://www.shinkin.co.jp/kozashinkin/>

おいしい幸せ オキコ



腎臓病、高血圧、リウマチ・膠原病、糖尿病
循環器疾患、その他内科一般、血液透析(外来)

医師 田名 毅・比 嘉 啓
(琉大医学科 四期生)

第一クリニック TEL: 098-885-5000
第二クリニック TEL: 098-833-1001

ホームページ <http://www.shuri-jc.jp>

不動産業による地域貢献を目指します



代表取締役社長 金城 竜治

〒903-0103 西原町字小那覇 628 番地 1
TEL.(098)945-3311
FAX.(098)835-8179



あなたの暮らし丸ごと応援!

JAおきなわ

「沖縄型循環社会」をめざして

 **街クリーン GROUP**

取締役会長 赤嶺和雄

代表取締役社長 赤嶺太介

Panasonic

パナソニックコンシューマーマーケティング沖縄(株)

〒901-2133 浦添市城間4丁目23番11号 TEL : 098 - 877 - 1201

URL : <https://www.panasonic.com/jp/company/pcmo.html>

島と、
生きる。

沖縄のために。これまでも、これからも、
 沖縄電力

一生によりそう一秒を。

RBC 



琉球銀行

Orion

何千もの沖縄の草木から
見つけた酵母の、華やかな香り。



オリオン ザ・プレミアム

 飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。のんだあとはリサイクル 

オリオンビール株式会社



QXB 5channel

CATCHY
キャッチー

第1部 月~金 午後4時15分 情報番組
第2部 月~金 午後6時15分 ニュース

2023年度上期
個人視聴率

全日 6:00-24:00
ゴールデン 19:00-22:00
プライム 19:00-23:00

三冠王

DTV

SDGs... 安心安全をサポート 琉大生優遇

節約型マイカーリース (中古車) 17,000円~ (税別)
(軽自動車限定: 車両&車検&修理代金込み)
格安車検・板金 (リサイクルパーツ使用) 代車あり

リースサポート琉球 (LSR)

代表 田中俊文
那覇市金城 5-9-2-506
e-mail: taanabkac@gmail.com
連絡先: 070-5810-2665 (田中)

沖縄経済、社会課題を深掘り

お得感満載!!

琉球大学の関連記事はコチラ

沖繩タイムスがスマホで読める

スタンダードプラン

2,750円

最大2ヶ月無料!!

1日約90円でコンテンツ読み放題!

タイムスプラスのお申し込みはコチラ

琉球新報社

琉球大学OB・OG一同

〒900-8525 那覇市泉崎1-10-3
TEL.098(865)5111(代)

Shinsei
新星出版株式会社

本社 〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-16-1
(琉球新報開発ビル2F)
TEL:098-866-0741 FAX:098-863-4850
HP <http://www.s-syuppan.com>

琉球大学同窓会主催
チャリティーゴルフ大会参加申込書

御社名 _____

申込責任者 (連絡先) _____

希望予約時間	午前 : 午後 :	・東スタート ・南スタート ・西スタート
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	

御社名 _____

申込責任者 (連絡先) _____

希望予約時間	午前 : 午後 :	・東スタート ・南スタート ・西スタート
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	
フリガナ	ご住所	
お名前	☎() -	

スタート時間:午前の部 7:00~ 午後の部 12:00~

集合時間:スタート時間の30分前

※申込については、琉球ゴルフ倶楽部予約係まで直接電話連絡をしていただき、予約を確認した上で、「申込責任者」「希望予約時間」「参加者氏名」「連絡先電話番号」をご記入の上、申込責任者の方が直接 FAXでお申し込みください。

※連絡先はなるべく携帯電話の番号またはE-mailのアドレスをご記入ください。

琉球ゴルフ倶楽部 予約係

予約専用電話 098-948-2464 FAX 098-949-7573



琉球大学同窓会創立70周年記念

チャリティーゴルフ大会

2024年4月9日(火)

琉球ゴルフ倶楽部

- 目的** 同窓会創立70周年記念として開催、収益金は学生及び母校支援に活用する。
- 競技方法** 18ホールストロークプレイ(ダブルペリア方式)
- スタート時間** 午前の部 7:00～ 午後の部 12:00～
- 参加費** 16,000 円(グリーンフィー、キャディーフィー、参加費を含む)
※当日各自フロントにてお支払ください。会員の方はフロントに申し出てください。
- 賞品** 優勝者にはJAL沖縄支店提供「東京往復ペア航空券」を贈呈
その他各種賞品をご用意しています。
プレー後、抽選にて参加者全員に賞品を差し上げます。
- 申込方法** 4 人一組単位を基本に、申込代表者が、裏面の申込書でゴルフ場へ直接FAXでお申し込みください。※お一人様申込の際は調整します。



[顧問] ※50音順掲載、敬称省略



顧問
那覇空港ビルディング
社長 安里 昌利



顧問
大同火災海上保険
相談役 上間 優



顧問
コザ信用金庫
会長 金城 馨



顧問
県経営者協会
会長 金城 克也



顧問
県工業連合会
会長 古波津 昇



顧問
日本航空沖縄支店
支店長 佐々木 政茂



顧問
琉球放送
社長 中村 一彦



顧問
琉球大学
学長 西田 睦



顧問
元名城大学
理事長 比嘉 良雄



顧問
沖縄電力
社長 本永 浩之



顧問
沖縄銀行
会長兼頭取 山城 正保



主催者
琉球大学同窓会
会長 幸喜 徳子

実行委員

※敬称省略50音順

赤嶺 太介(街クリーン)、安慶田 晃大(沖縄電力)、大城 純市(同窓会)、金城 徹(琉球大学)、
崎原 正樹(海邦銀行)、島袋 永伸(日経 教育グループ)、島袋 正也(久米島の久米仙)、
新城 勇(同窓会)、当真 邦子(同窓会)、渡久山 秀治(同窓会)、仲松 鈴子(同窓会)、
比嘉 正幸(同窓会) 宮城 重哲(同窓会) 森田 治(ティードコーポレーション) 事務局:喜屋武(同窓会)

098-948-2464